

吉 塚 1 1

－吉塚遺跡第13次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1299 集

2 0 1 6

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する吉塚遺跡13次の発掘調査報告書は共同建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では古墳時代から近世の集落や水田を確認し、多量の土器が出土しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2016年3月25日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

例言

- 本報告書は博多区堅粕4丁目413-2、413-6、415-1、419-2、420-5の共同住宅建設工事に伴って2014年4月14日から2014年6月27日にかけて発掘調査を行った吉塚遺跡第13次調査の報告書である。
- 本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の屋山洋が担当した。
- 遺構実測と写真撮影は屋山、遺物実測と製図等を濱石正子、大庭友子、副田則子、屋山が担当した。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

遺跡調査番号	1403	遺跡番号	0123	分布地図番号	博多駅36
調査地地番	福岡市博多区堅粕4丁目413-2、413-6、415-1、419-2、420-5				
開発面積	1400㎡	調査面積	427㎡	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20140414～20140627		担当者	屋山 洋	

吉塚11

—吉塚遺跡第13次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書1299集



遺跡略号 YSZ - 13

調査番号 1403

2016

福岡市教育委員会

目次

I はじめに	1	3) 溝	21
II 調査の記録	4	4) 谷	34
1. 調査の経過	4	5) 水田	34
2. 調査の概要	4	6) 動物遺存体	34
3. 遺構と遺物	4	7) その他の遺物	35
1) 井戸	4	4. 小結	35
2) 土抗	10		

挿図

第1図 周辺遺跡分布図	2	第15図 溝土層図2	18
第2図 調査地点位置図	2	第16図 溝断面図1	19
第3図 調査区位置図	3	第17図 溝出土遺物1	20
第4図 第1面平面図	5	第18図 溝土層図3	22
第5図 第2面平面図	6	第19図 溝出土遺物2	23
第6図 第3面平面図	7	第20図 溝出土遺物3	24
第7図 井戸実測図	9	第21図 溝出土遺物4	25
第8図 井戸出土遺物実測図	10	第22図 1007出土遺物実測図	26
第9図 土抗実測図1	11	第23図 漁労関係遺物実測図	27
第10図 土抗実測図2	12	第24図 弥生時代遺物実測図	28
第11図 土抗実測図3	13	第25図 古墳時代～古代出土遺物1	30
第12図 土抗実測図4	15	第26図 古墳時代～古代出土遺物2	31
第13図 土抗出土遺物実測図	16	第27図 古墳時代～古代出土遺物3	32
第14図 溝土層図1	17	第28図 古墳時代～古代出土遺物4	33

表

表1 遺構一覧1	36	表4 遺構一覧4	39
表2 遺構一覧2	37	表5 遺構一覧5	40
表3 遺構一覧3	38		

図版

図版1

1. I区1面全景
2. I区2面全景

図版2

1. I区3面全景
2. II区1面全景

図版3

1. II区2面全景
2. II区北側

図版4

1. SE1064
2. SE1064 井筒
3. SE1064 土層
4. SE2137
5. SE2137・SD2128 土層
6. SE3147
7. SE3147
8. SE3148

図版5

1. SK3023
2. SK1065
3. SK2104
4. SK2104 土層
5. SK3001
6. SK3002
7. SK3003
8. SK3004

図版6

1. SK3006
2. SK3146
3. SK3149
4. SK3149 遺物出土状況
5. SX3144
6. SX3144 土層
7. II区2面東側
8. 申請地東側(廃土置き場)

図版7

1. SD1092
2. SD1092 土層
3. SD2011
4. SD2011 漆器出土状況
5. SD2128
6. SD3021 土層
7. SD3006
8. SD3019

図版8

1. 3007(水田)土層
2. SD3019 土層
3. SD3021
4. SD3145
5. SD3021
6. SD3145 土層
7. I区南壁土層
8. II区1面遺構検出状況

I. はじめに

1 調査に至る経緯

平成 25 年（2013 年）11 月 26 日付けで博多区堅粕 4 丁目 413 - 2、413 - 6、415 - 1、419 - 2、420 - 5 の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査依頼（25 - 2 - 943）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である吉塚遺跡内に位置し、申請地に隣接する 1 次調査でも弥生時代から近代までの遺構が確認されている。その後、平成 26 年 1 月 27 日に遺構密度確認のため確認調査を行ったところ、地表面から 110 ~ 155cm で古墳時代～中世の遺物を含む層を確認し、遺構面も 3 面程あることが判明した。これらから埋蔵文化財審査課では建設に先だて埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録保存を図ることが必要であると判断して原因者と協議を進め、平成 26 年 4 月 14 日から 6 月 27 日にかけて発掘調査を行った。調査期間中は表土剥ぎや水道の設置など原因者及び関係各位の多大なご協力を頂いた。記して感謝したい。

2 調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会（発掘調査 平成 26 年度：整理報告 平成 27 年度）

調査統括 福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課

埋蔵文化財調査課長 常松幹雄（平成 26・27 年度）

同課調査第 1 係長 吉武 学（平成 26・27 年度）

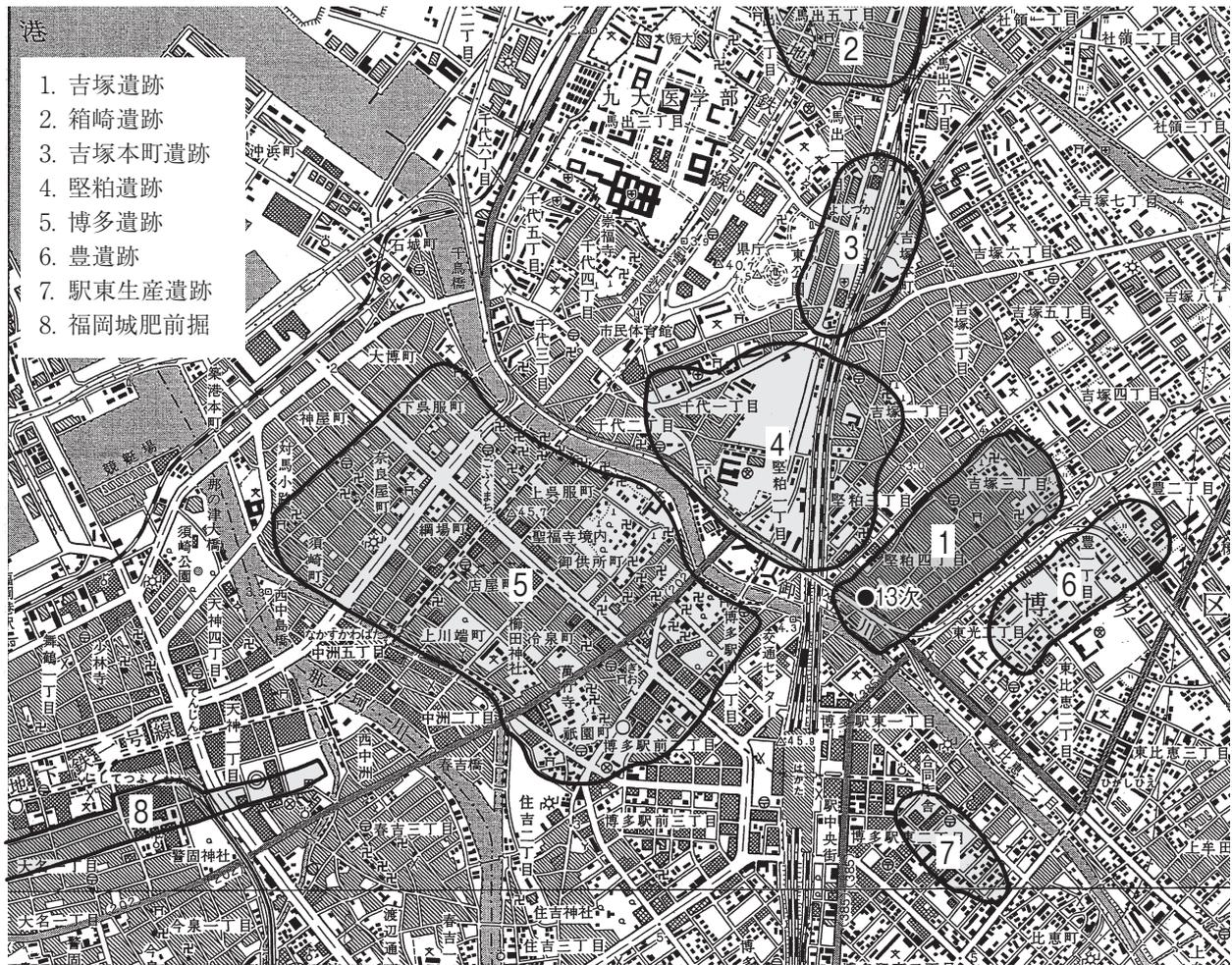
庶務 埋蔵文化財審査課審査係 川村啓子（平成 26・27 年度）

調査担当 埋蔵文化財調査課 屋山 洋

作業員	阿部純子	阿比留一郎	岩佐克行	江浜明德	緒方圭子	岡部安正	岡村まどか
	河原明子	児玉和美	近藤英彦	坂口壽美子	須佐恵司	節政善憲	芹川純子
	田尻由紀子	田端名穂子	富岡洋子	永松弘恵	西藤勝喜	野内聖司	栢山恵子
	吹春憲治	中村健三	竹内武俊	安武陽子	山下直美	山田美恵子	鷺崎哲夫
	鷲津真二郎	脇田誠二	迎健司	坂梨美紀	松下さゆり	日高芳子	
整理	濱石正子	大庭友子	坂口龍子	副田則子			

3 調査区の立地と環境

吉塚遺跡は博多湾に面した砂丘上に位置する。弥生時代から近代まで続く複合遺跡で、近隣の調査では弥生時代終末の竪穴式住居や古墳時代の土坑、古代末から中世にかけての溝や土坑、井戸などが出土している。13 次調査地点は砂丘の南西端部近くに位置し、北西部の約 1/4 が砂丘で、残りは谷もしくは流路である。砂丘上の遺構は古墳時代と考えられる土坑と井戸が出土した以外は古代から近世にかけてのもので、溝数条、井戸 4 基、土坑数基が出土した。谷は南北に延び、南端部では近世～近代の水田が出土した。中央部分では埋没した谷に何度も溝が掘られている。遺物は龍泉窯系青磁碗等の貿易陶磁器が出土しており古代末から中世前半に属すると考えられる。谷の土層は厚さ 15 ~ 30 cm の灰白色シルトで大きく上下に分けられるが、上層では中世後半の遺物と共に古墳時代前期、古墳時代後期から 8 世紀、11 ~ 12 世紀の遺物が多量に出土した。シルト下層は更に 2 層に分けられ、第 1 層は古墳時代前期、下層では弥生時代中～後期の遺物が出土した。弥生時代の層の底面は東側にむけて緩やかに傾斜しており、調査区内では立ち上がりは確認できなかったため、当時の谷幅はかなり広く、砂丘の南側に開口する谷ではなく、砂丘を分断する河川の可能性が考えられる。



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

□ は吉塚遺跡の範囲 (平成 27 年 10 月現在)



第2図 調査地点位置図 (1/4000)



第3図 調査区位置図 (1/500)

II . 調査の記録

1 調査の経過

申請地は2129.55㎡を測る。調査着手時には自走式の立体駐車場の計画などもあり、最終的な調査面積は決定していなかったが、その後、遺構面まで達するような掘削を伴う開発は南西端の道路に接した共同住宅建設部分のみに決定したため、調査面積は427㎡となった。調査は廃土置き場の都合から南北半分に分けて、南側のI区から着手した。確認調査時に厚さ40cm程の包含層が確認されており、その包含層も上下2層に分けられるため計3面の遺構面を設定して発掘調査を行った。調査はまず4月2日に現地で原因者側と協議を行い、日程等の打ち合わせを行い、それを元に4月7日原因者側で行った表土剥ぎに立ち会い、4月14日に機材の搬入を行ってI区の調査を開始した。4月21日に1面目の全景写真を撮影、それから23～28日で2面目まで人力で掘り下げた。4月30日から2面の調査を始め5月7日に全景写真を撮影、5月8日から2面から3面目までの掘り下げを開始した。雨のため作業が進まず3面目を開始したのが5月16日である。5月23日に3面目の全景写真を撮影し、5月21日からII区1面目の調査を開始した。6月2日に1面目の全景を撮影、1面目から2面目までの掘り下げは3日から5日までかかり、6月6日に2面目の調査を開始した。6月18日に2面目の全景写真を撮影、19日に遺構の個別写真を撮影、その後はベルト等を壊しながら遺構の実測を進めて、6月25日に実測終了。6月27日に機材を撤去して調査を終了した。調査面を3面設けたことで1面ごとの調査日数が短くなり、遺構検出等が粗くなったためか、I区とII区の遺構がズレるなどの弊害が生じた。今回の調査の目的には谷部の各堆積層の時代確定もあり、調査の概要でおおよその目安を書いているが、I区1面の溝と同様に検出できなかった遺構も多いと思われ、時期は断定しがたい。

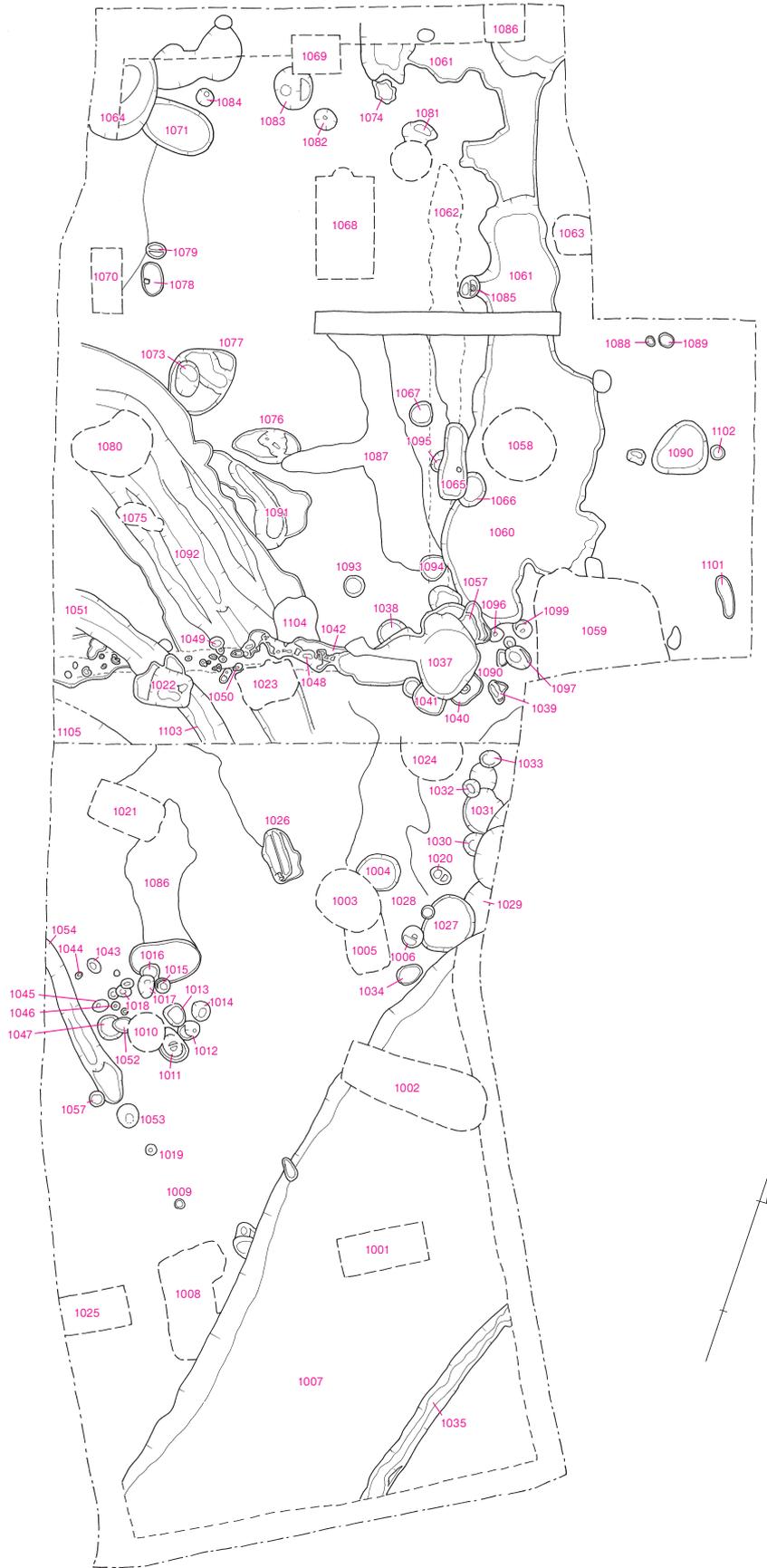
調査の概要

第1面目の標高は2.60 m、第2面目は2.30 m、第3面は2.10 mを測る。北側のI区では第1面から30cm下で砂丘面に達したため、調査は第2面で終了した。第1面は茶褐色土を盤にしており、遺構の時期は古代～近世である。第2面は褐灰色砂質土の上面で、第3面目は谷の埋土を除去した灰白色の粗砂層上で検出し、遺構の時期は古墳時代～古代前半である。灰白色粗砂層も上層は弥生時代から古墳時代の遺物を含んでおり、砂丘上から遺物が流れ込んだものと思われる。粗砂層の下は砂層と礫層の堆積で遺構がある可能性は低い。トレンチを掘り下げたが、湧水で崩壊しかけたので中止した。

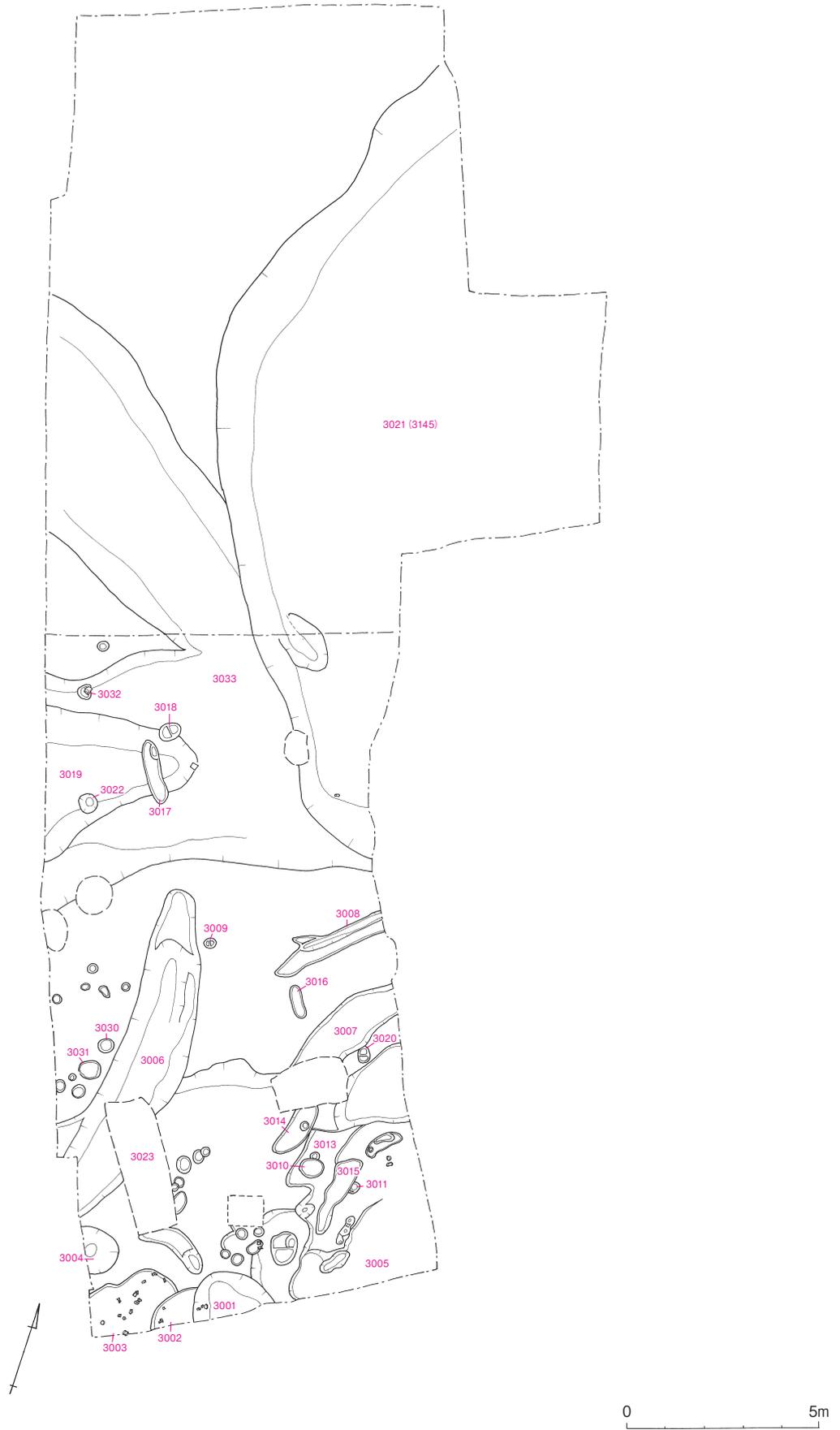
3 遺構と遺物 出土した遺物の詳細はP36～P40の遺構一覧表に記載している。

1) 井戸 II区北側の砂丘上で4基出土した。

SE1064 (第7図) 調査区の北西角に位置する。第1面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に伸び、遺構の北端は攪乱により削平を受けている。平面形は楕円に近いと思われ、主軸はほぼ南北を向いている。現状で南北推定2.4 m、東西1.65 mを測る。掘方断面は逆台形を呈し、遺構検出面から70cm掘り下げて平坦面を整えた後、中央部を径1 m、深さ35cm程逆台形に掘り下げている。底径は87cm、底面の標高は1.55 mを測る。井筒は桶組みと思われるが、痕跡のみで木質は遺存していない。井筒の下端は底面から12cm程浮く。一度掘り下げたのち、12cm埋め戻して井筒をおいているのは下端から水が流入しやすくするためか。井筒の下に石や木片などを据えて固定したような痕跡は見られない。土層から埋没時に井筒下端から65cmまでは遺存していたが、それから上は撤去もしくは崩壊したようで図の3層から上は井筒の痕跡は見られない。掘方の土は薄い暗灰褐色土や灰褐色土の間に黄褐色砂層を挟む。水平方向に近い盛り土である。井筒内の下半は暗灰褐色土で炭化物を多く



第4图 第1面平面图 (1/160)



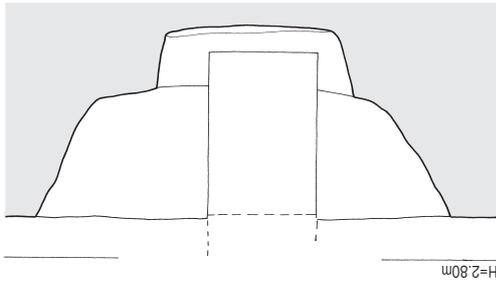
第6図 第3面平面図 (1/160)

含む。上層は暗灰褐色土や褐色土がレンズ状に堆積しており、掘方の土が崩壊して流れ込んだものである。出土遺物（第8図001～003）。井筒掘方からは龍泉窯系青磁腕Ⅱ類や白磁水中片など13世紀代の遺物が出土した。001～003も掘方からの出土である。001は白磁碗片で外面に連弧文がみられる。釉は薄い水色を呈す。002は底部糸切りの土師坏で復元底径10.4cmを測る。色調はにぶい黄橙色で胎土に雲母片と赤色粒を少量含む。003は白磁水柱の注ぎ口の一部である。遺存長5.7cm、径2.1cmを測る。釉は灰白色を呈す。井筒内からは極小片であるが天目腕が出土している。埋没時は13世紀後半から14世紀頃か。遺物はその他に弥生時代～古代の遺物が多く出土した。特に今回の調査で明確な遺構が確認できなかった6～7世紀の須恵器も坏蓋や坏が出土しており、近辺に古代の遺構が存在したことをうかがわせる。

SE2137（第7図） 調査区北西部の砂丘上に位置する。Ⅱ区第2面の調査で出土した。SD1092に切られており、遺構の西端が調査区外に伸びる。平面形は楕円形で主軸はN-15°-Wを測る。長径130cm、底径87cm、検出面からの深さ69cmを測る。底面の標高は1.26mを測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は灰褐色土と黄色砂がレンズ状に堆積する。土層からは井筒は確認できなかった。素掘りで壁の崩落で埋没している。埋土中から龍泉窯系青磁腕Ⅰ・Ⅱ類（内定面にスタンプ有り）や高麗象眼青磁の瓶片、白磁片、陶器片、土師坏、土師腕などが出土しており、埋没時期は14世紀頃と考えられる。遺物はその他に弥生後期の甕や古墳時代前期の土師器、似非須土師器の甕などが出土している。

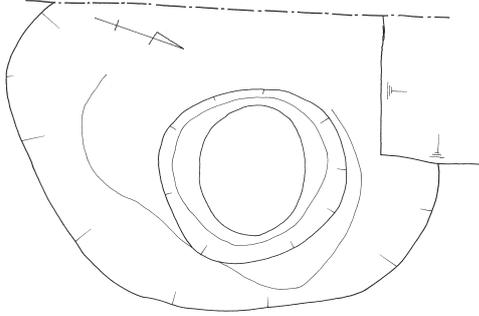
SE3147（第7図） 調査区北端の砂丘上に位置する。砂丘上で東側に開析する谷の縁部に位置する。本来は埋没した谷の上面から掘り混んだ可能性もあるが、遺構検出では確認できなかった。遺構平面は楕円形を呈し、谷の縁から径1m、深さ50cm程の範囲で砂丘を抉ってから平坦面をなし、その中央に不整楕円形で長径105cm、短径98cm、深さ20cm程を半球状に掘り下げている。下段の掘り込みの主軸はN-4°-Eを測る。底面標高は1.32mを測る。土層からは井筒は確認できず素掘りの井戸であったと思われる。井戸内埋土は暗茶褐色土である。出土遺物（第8図004～007）。出土した遺物量は少なく甕や二重口縁壺など古墳時代前期の土器片が出土した。004は土師甕口縁部で色調は外面黒色、内面はにぶい黄橙色を呈す。調整は外面が横ナデ、内面は口縁が横ハケ後ナデ、頸部はナデである。胎土は0.5mm程の白色砂と雲母片を少量含む。005は壺の底部である。復元底径3.6cmを測る。色調は内外面とも灰黄褐色で、外面は黒斑がある。調整は外面が粗い縦ハケ、内面はこまかな斜め方向のハケを施す。胎土は1mm程の白色砂と雲母片を含む。006は弥生時代の甕口縁である。色調は内外面とも橙色を呈し、調整は口縁端のみ横ナデで後はハケを施す。007は鉢口縁で色調は外面が暗褐色、内面は灰黄褐色を呈す。調整は全体にナデで、内面は口縁端にハケ、下にユビオサエの痕跡が残る。この他に弥生時代後期から終末にかけての土器片も出土した。遺構の時期は古墳時代前期に属する可能性がある。

SE3148（第7図） 調査区北端の砂丘上に位置し、SE3147の西側に隣接する。Ⅱ区2面目の調査で確認した。確認調査時のトレンチで遺構の西半分が削られている。遺構は谷（3150）の縁部に位置する。遺構平面は削平のため不明であるが、長径は1.5～2m程で砂丘面から60cmほど逆台形に掘り込み井筒を据えている。底径は約80cm、底面標高は1.65mを測る。井筒は木製で径40cmを測り、掘方底面に接して置かれている。木質は腐敗のため消失しており痕跡のみの遺存で、その痕跡も底面から5cmしか確認できなかった。埋土は暗褐色土である。埋土中から弥生時代中期の甕片1点と土器小片が3点出土した。土器小片は古墳時代の土師器の可能性が高いと思われる。

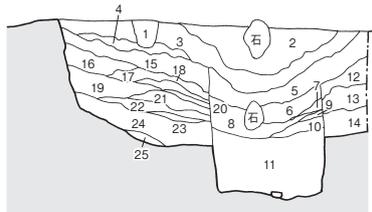


W08 Z=H

SE1064



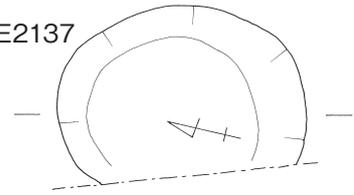
H=2.80m



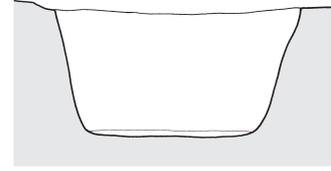
1. 黒褐色土
2. 黒褐色土 炭化物小片含む
3. 黒褐色土 茶褐色砂を多く含む
4. 褐色砂
5. 黒褐色土 茶褐色砂を含む
6. 暗灰茶褐色土
7. 茶褐色砂
8. 灰褐色土
9. 茶褐色砂
10. 灰褐色土 茶褐色砂を多く含む
11. 暗灰褐色土 炭化物と茶褐色砂を多く含む
12. 暗茶褐色砂質土
13. 黄色砂
14. 黄色砂 薄い茶褐色土層を数枚含む
15. 暗灰褐色土 砂を多く含む
16. 灰褐色土
17. 暗灰褐色土 砂を多く含む
18. 黄色砂
19. 灰褐色土 黄色砂を多く含む
20. 灰褐色土
21. 黄色砂
22. 暗茶褐色土
23. 黄色砂
24. 暗黄褐色砂質土
25. 暗褐色土

0 1m

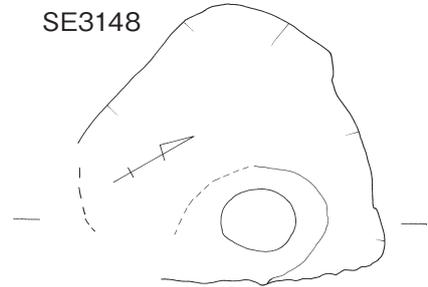
SE2137



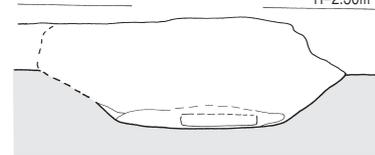
H=2.10m



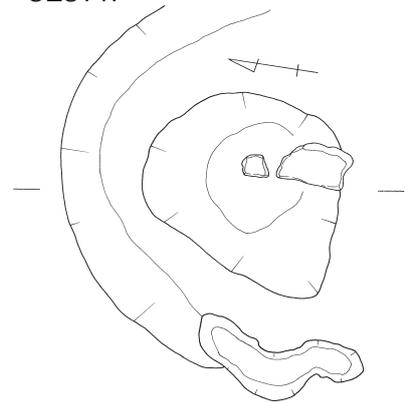
SE3148



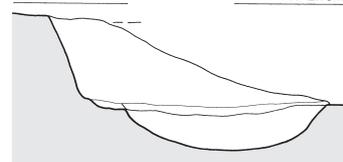
H=2.30m



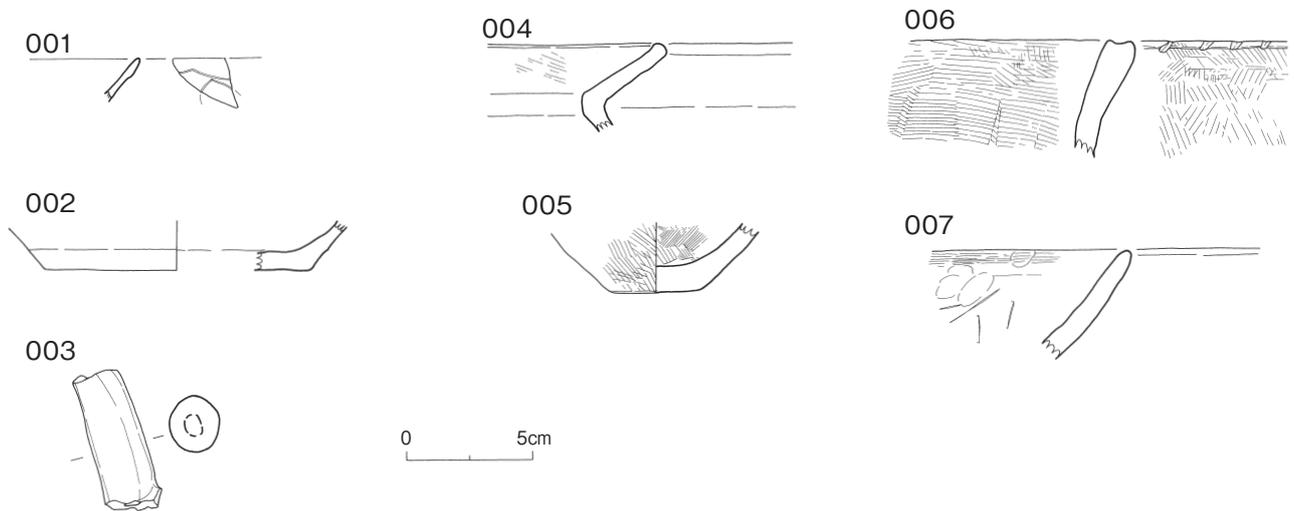
SE3147



H=2.10m



第7図 井戸実測図 (1/40)



第 8 図 井戸出土遺物実測図 (1/3)

2) 土抗

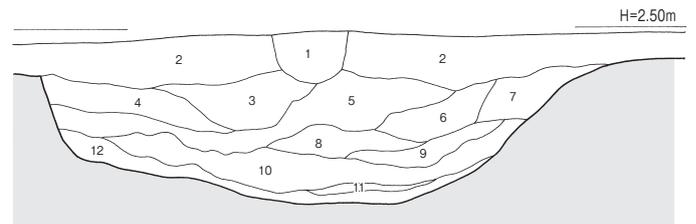
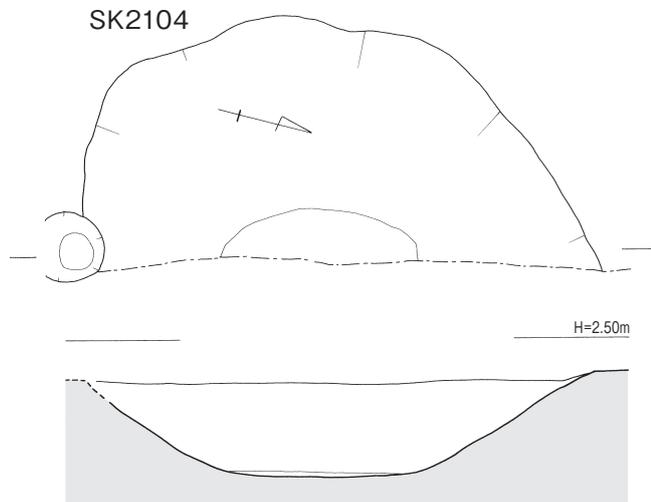
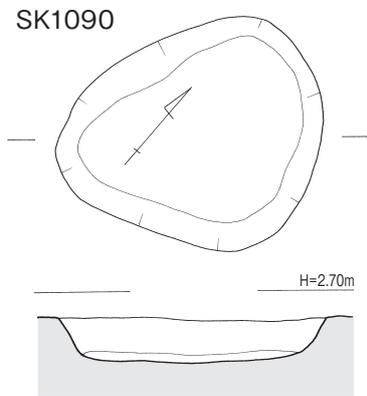
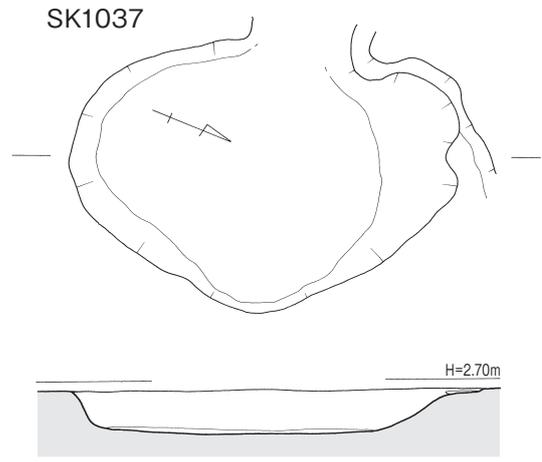
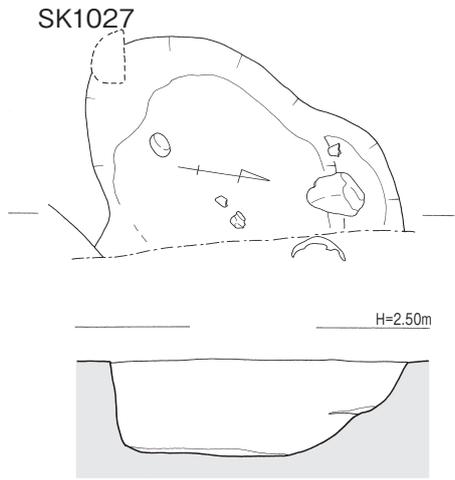
SK1027 (第 9 図) 調査区中央東側の谷部に位置する。I 区 1 面の調査で確認した。遺構の東側を 1007 の水田に切られる。現状で南北 1.5 m、東西 1.2 m、検出面からの深さ 52cm を測る。断面は逆台形を呈し、北側に底面からの高さ 20cm の所に三日月型のテラスを持つ。埋土は灰褐色土である。上層で径 30cm ほどの角礫が 2 点と小礫、土器片等が出土した他に埋土中から青磁片、白磁片、陶器片、土師質瓦、須恵器高台付坏、須恵器甕、土師椀が出土した。12 世紀頃と思われる。

SK1037 (第 9 図) 調査区中央から東寄りの谷中に位置する。II 区 1 面の調査で確認した。平面形は楕円形を呈し、主軸は N - 19° - W を測る。長径 203cm、短径 144cm、検出面からの深さ 23cm を測る。断面は逆台形を呈す。西側へ溝状に出っ張りが見られるが、これは別遺構である SX1062 の一部である。SX1062 は敷地境界の植木痕跡で、幅 50cm 前後の範囲に根痕がみっしりと詰まっていた。1037 との切り合いは不明である。埋土は灰黄褐色土で、遺物は出土せず遺構の時期は不明である。

SK1090 (第 9 図) 調査区東側の出っ張り部分に位置する。II 区 1 面の調査で出土した。平面形は不整楕円形で主軸は N - 49° - E を測る。長径 139cm、短径 124cm、検出面からの深さ 23cm を測る。断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色粗砂で白色粘土ブロックを多く含む。埋土中から須恵器坏蓋 (8 世紀)、土師質高台付坏 (8 世紀) が出土した他、須恵器坏 (6 世紀後半)、須恵器甕、土師器甕 (格子タタキ)、壺 (古墳時代) などが出土した。北側は包含層の厚さが薄いため、古代までさかのぼる可能性はあるものの、検出面から考えて古代末以降に下る可能性がある。

SK2103 (第 5 図) 調査区東側出っ張りの東端に位置する。II 区 2 面の調査で出土した。遺構の東側が調査区外に伸びる。現状で南北 96cm、東西 53cm、検出面からの深さ 9cm を測る。掘方断面は浅皿状を呈す。出土遺物 (13 図 011 ~ 013)。011 は蛸壺である。口径 5.1cm、器高 8.3cm を測る。黄橙色を呈し、胎土に白色砂を含む。012 は手捏ね土器である。口径 4.45cm、器高 3.4cm を測る。やや灰色かかった黄褐色を呈し、胎土には白色砂を多く含む。013 は手捏ね土器である。口縁と底部を欠く。淡橙褐色を呈し、胎土には白色砂と雲母片を含む。

SK2104 (第 9 図) 調査区東側出っ張りの東端に位置する。II 区 2 面の調査で出土した。遺構の東側半分が調査区外に延びる。現状で南北 270cm、東西 128cm、検出面からの深さ 50cm を測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は上層は灰色砂質土、下半は暗灰色砂質土を主とし、水平方向の堆積である。出土遺物 (第 13 図 014・015)。014 は土製支脚である。土器を支える角状の出っ張り 2 本のうちの 1 本と底部の一部を欠く。器高 8.3cm を測る。色調は淡赤褐色で胎土中に白色砂を多く含み、5mm 以上の小礫も少量含む。調整は全体的にナデを施す。015 は須恵器坏蓋と思われる。色調は外面が暗オリー

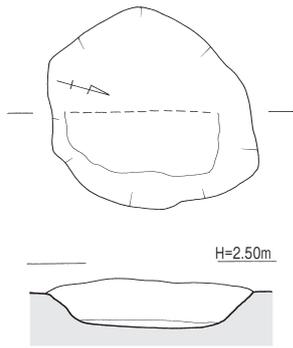


1. 灰褐色土 柱穴掘り込み
2. 暗灰褐色土 粗砂多く含む
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土 炭化物小片含む
5. 灰色土
6. 暗灰色砂質土 粗砂を多量に含む
7. 灰色砂質土
8. 灰色砂質土 炭化物小片含む
9. 暗灰色土 粘質土粒子を含む
10. 暗灰色砂質土 径3～5cmの暗黄褐色土を含む
11. 暗灰色土 炭化物小片含む
12. 灰色粗砂

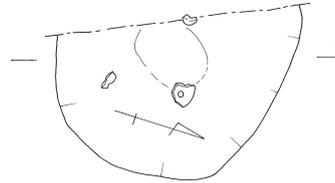
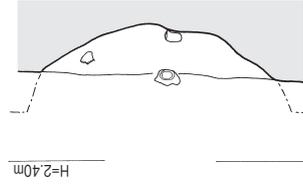
0 1m

第9図 土坑実測図1 (1/40)

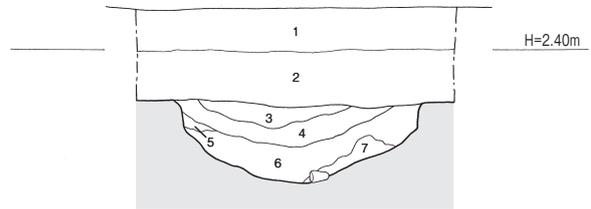
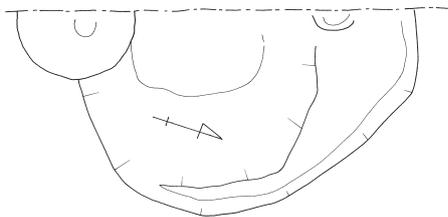
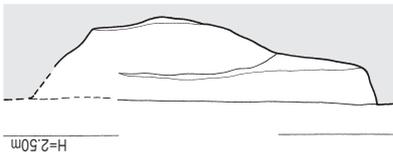
SK2126



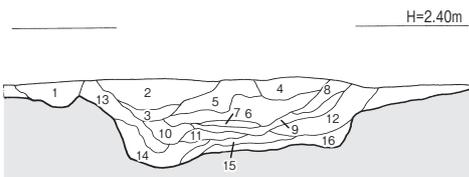
SK3004



SK2134



- 1. 茶褐色土 粗砂・炭化物小片・土器片を少量含む
- 2. 灰茶褐色砂質土 粗砂多く含む
- 3. 暗灰褐色砂 土器小片含む
- 4. 黒灰褐色粘質土 粗砂少量含む
- 5. 灰色粗砂
- 6. 黒灰褐色粘質土のブロックと暗褐色粗砂がグチャグチャに混じる
- 7. 暗灰色砂質土
- 8. 暗灰色砂質土

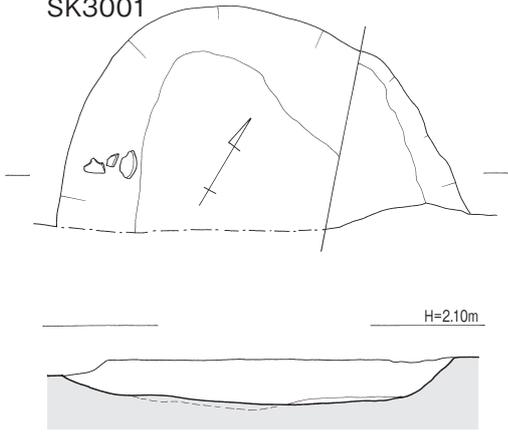


- 1. 灰色砂質土 SD1105 埋土
- 2. 暗灰色砂質土 炭化物小片を少量含む
- 3. 暗灰色砂質土
- 4. 灰色砂質土
- 5. 暗灰褐色粘質土
- 6. 白色砂
- 7. 茶褐色砂
- 8. 暗灰褐色粘質土
- 9. 灰色砂質土 黄褐色砂を多く含む
- 10. 褐色砂 暗灰褐色土の粒を含む
- 11. 暗灰褐色粘質土 白色砂を多く含む
- 12. 白色砂 暗灰褐色土の粒を含む
- 13. 白色砂
- 14. 灰褐色砂質土 白色砂を多く含む
- 15. 暗灰褐色粘質土
- 16. 灰色土 白色砂を多量に含む

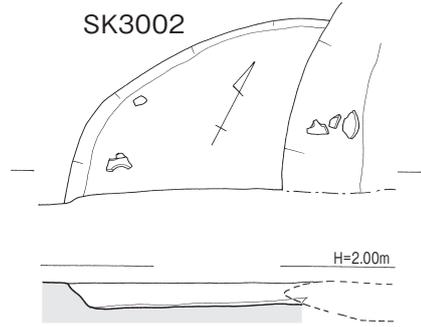
第 10 図 土抗実測図 2 (1/40)



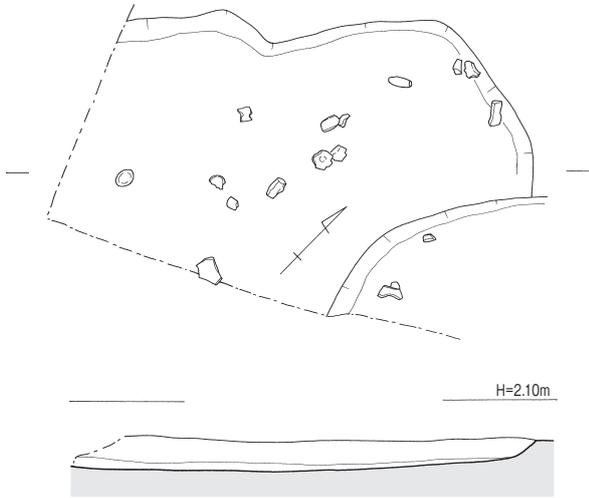
SK3001



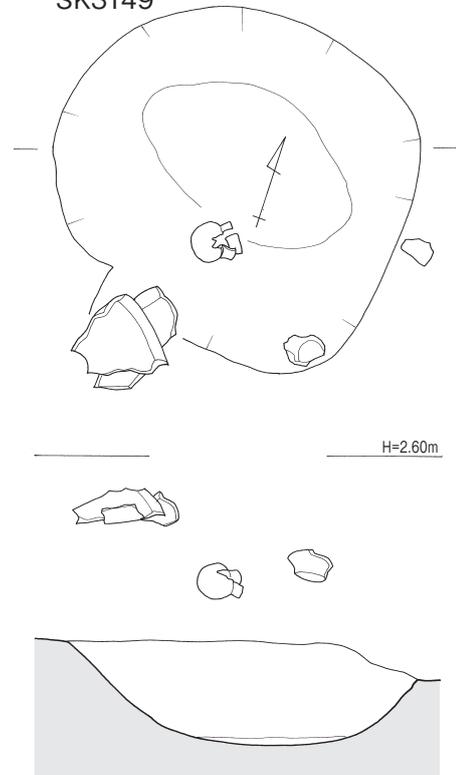
SK3002



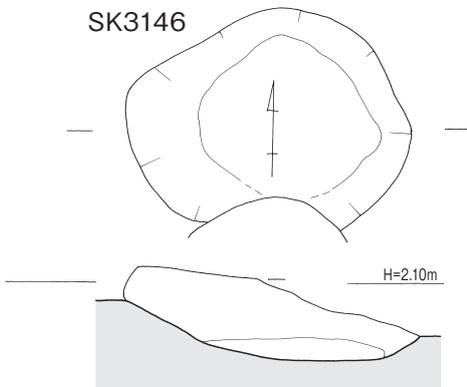
SK3003



SK3149



SK3146



第 11 図 土抗実測図 3 (1/40)

0 1m

ブ色で胎土は白色砂を少量含む。外面に魚々子が打たれている。7世紀から8世紀頃と考えられる。

SK2126 (第10図) 調査区中央北寄りの砂丘端部に位置する。Ⅱ区2面の調査で出土した。遺構平面は不整な菱形を呈し、主軸はN-13°-Eである。長径121cm、短径101cm、検出面からの深さ27cmを測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は灰色を呈す。埋土中から須恵器坏蓋(7世紀)、須恵器甕、甕(古墳時代と弥生時代後期)などが出土した。7世紀頃と思われる。

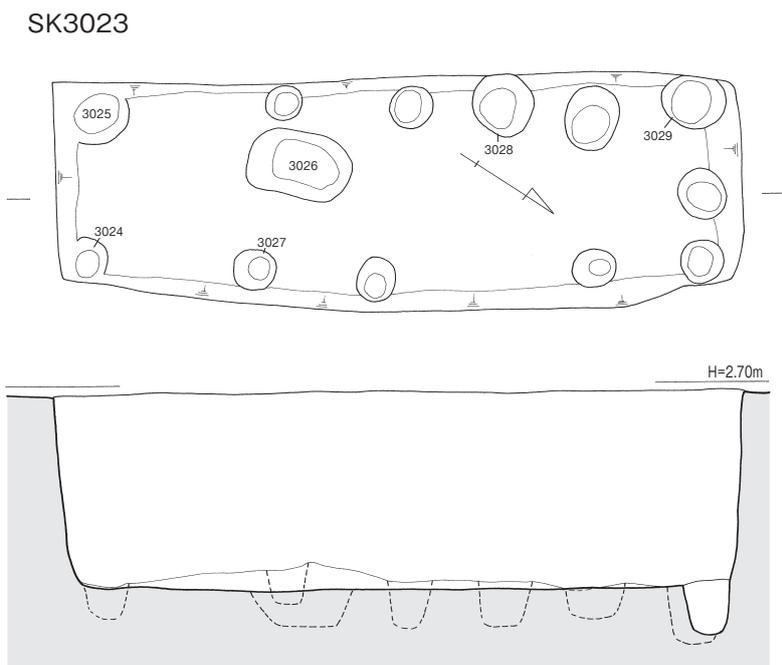
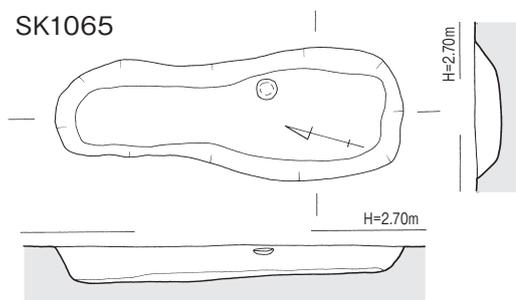
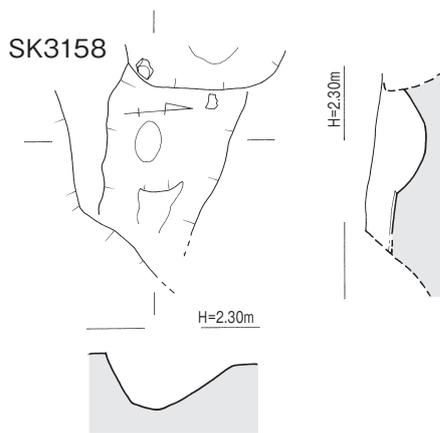
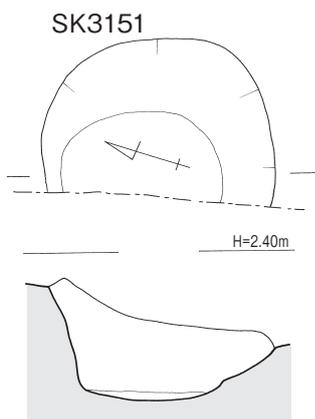
SK2134 (第10図) 調査区中央の西端に位置する。Ⅱ区2面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延び、平面形は不明である。現状で南北182cm、東西110cm、検出面からの深さ45cmを測る。掘方断面は逆台形を呈し、北縁に沿って三日月型のテラスをもつ。埋土は灰色砂質土である。埋土中から須恵器高台付(8世紀)、須恵器模倣壺(古墳時代後期)などが出土した。8世紀頃と思われる。

SK3004 (第10図) 調査区南西端に位置する。Ⅰ区3面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延びる。平面形は円形もしくは楕円形と推定される。現状で南北129cm、東西87cm、検出面からの深さ41cmを測る。掘方断面は播鉢状を呈する。埋土は暗灰褐色砂、黒灰色粘質土を主とし、レンズ状に堆積する。図の第6層は黒灰褐色粘質土に暗灰褐色砂がグチャグチャに混じる。滞水して溜まったヘドロに雨水などによって粗砂が流入したものか。出土遺物(第13図024～026)。024は土師碗で復元口径15.8cm、器高6.1cmを測る。色調は淡橙色～灰白色を呈す。調整は全体に回転横ナデを施す。胎土は精良である。025は須恵器坏蓋である。外面は暗赤褐色、内面は暗紫灰色を呈し。外面天井部はカキ目、その他は回転ナデを施す。内面天井部は回転ナデの上から静止ナデを施している。026は須恵器坏蓋である。ヘラ記号有り。その他に須恵器高台付坏(8世紀)、須恵器坏蓋(8世紀前半と7世紀)が出土した。時期は8世紀前半ごろか。その他古墳時代や弥生時代の土器片も出土した。

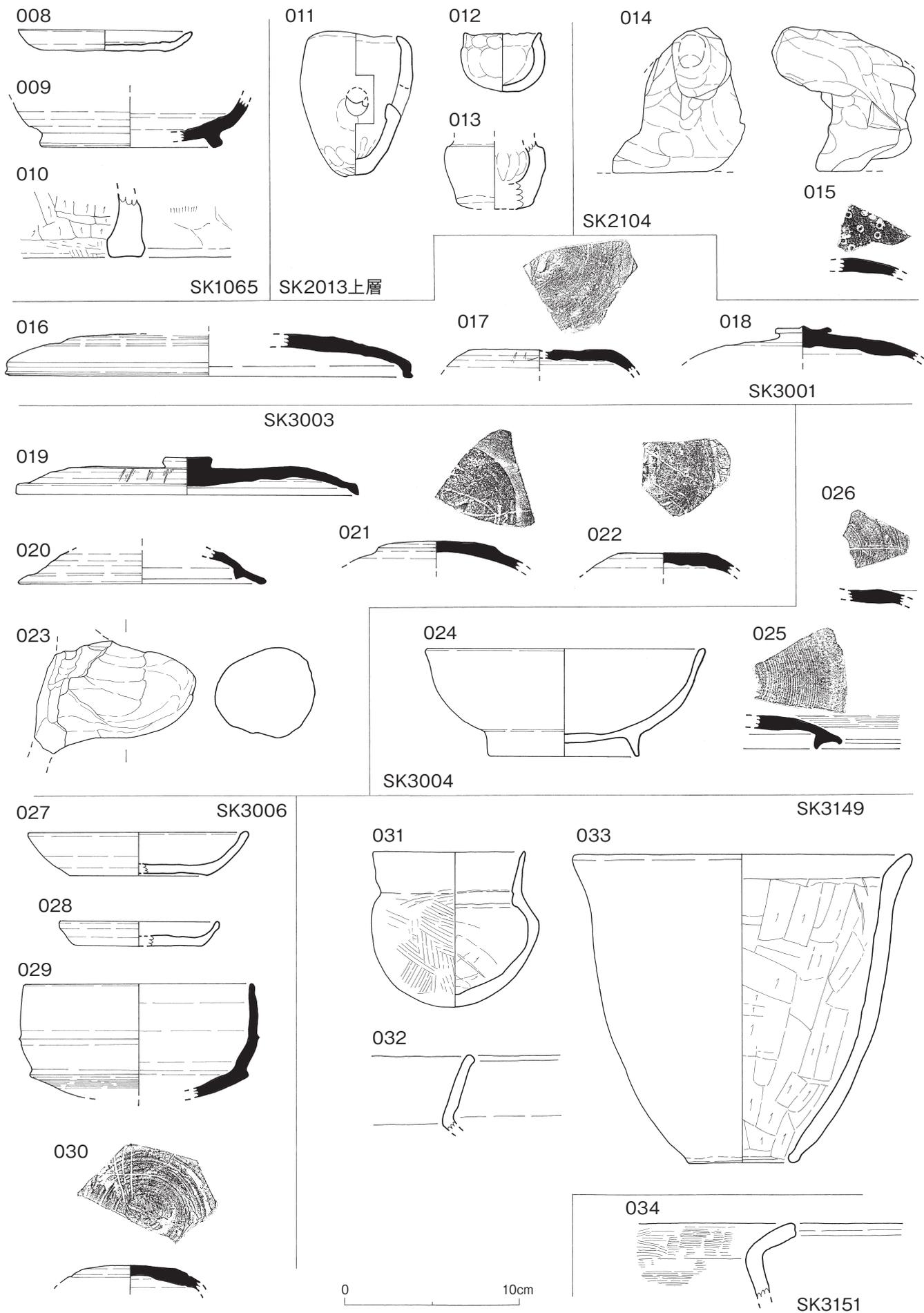
SK3001 (第11図) 調査区南端に位置する。Ⅰ区3面の調査で出土した。遺構の南側半分が調査区外に延びる。現状で南北118cm、東西216cm、検出面からの深さ27cmを測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色土である。埋土中から須恵器坏蓋(8世紀前半と6世紀)、須恵器坏(6世紀)、土師器高台付坏(8世紀)、須恵器高坏、須恵器甕など古墳時代末から8世紀代の遺物が出土している。磁器片が1点出土しているが、遺構直上に近世の包含層と水田があるため、それからの紛れ込みの可能性はある。隣接する3002、3003の状況からも8世紀代の可能性が高いものと思われる。出土遺物(第13図016～018)。016～018は須恵器坏蓋である。016は大型で復元口径23cmを測る。内外面とも淡灰色を呈す。調整は回転ナデで外面天井部は回転ヘラ削りを施す。胎土に0.5mm程の白色砂と雲母片、黒色粒を含む。017は灰色を呈し、天井部にヘラ記号を刻む。018は薄い摘まみがつき、つまみ径3.2cmを測る。内外面とも淡灰色を呈し、天体に回転ナデを施す。胎土は精良である。

SK3002 (第11図) 調査区南端に位置する。Ⅰ区3面の調査で出土した。SK3001の西側に位置し、遺構の東側を3001に切られている。また南側半分は調査区外に延びるため確認できたのは全体の1/4程である。現状で東西1.4m、南北0.9m、検出面からの深さ13cmを測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色砂質土である。埋土中から須恵器坏(7～8世紀)、須恵器高坏、須恵器甕などが出土した。8世紀頃と思われる。

SK3003 (第11図) 調査区南端に位置する。Ⅰ区3面の調査で出土した。SK3002の西側に位置し、遺構の東側を3002に切られる。遺構の南側と西側は調査区外に延びる。現状で東西2.5m、南北1.5m、深さ16cmを測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は黒色土である。出土遺物(第13図019～023)。019～022は須恵器坏蓋である。019は復元口径16.4cmを測る。外面天井部が回転ヘラ削りで、他は回転ナデを施す。色調は灰色であるが、内面は黒色を呈す。硯として使用か。020は復元公開14cmを測る。色調は灰色を呈す。021・022は外面にヘラ削りを施す。023は甕取手である。にぶい橙色を



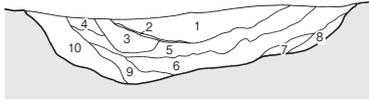
第 12 図 土抗実測図 4 (1/40)



第 13 图 土坑出土遺物実測図 (1/3)

SD3006

H=2.30m

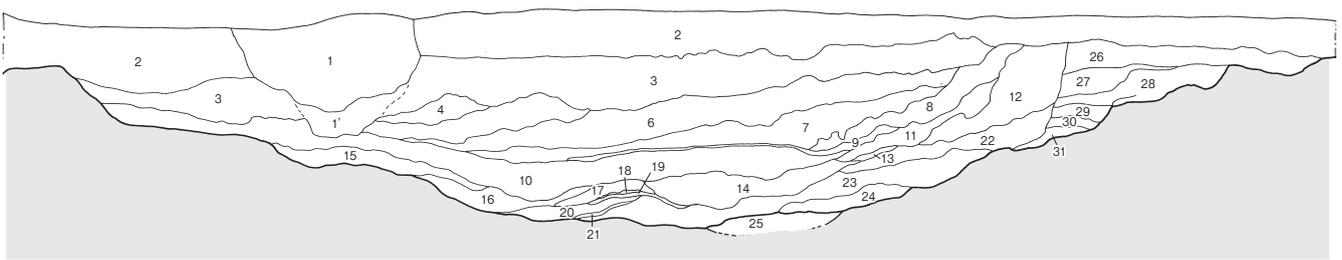


1. 灰色土 茶褐色砂を多く含む
2. 灰色粘質土
3. 灰褐色砂質土
4. 灰色砂質土
5. 暗灰色粘質土
6. 暗灰色粘質土 白色粗砂を多量に含む
7. 灰褐色砂質土
8. 赤黄褐色砂
9. 暗灰色粘質土
10. 灰茶褐色砂



SD3019

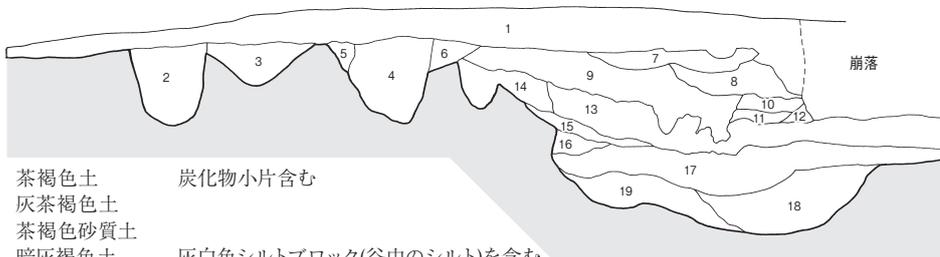
H=2.70m



1. 灰茶褐色土
2. 茶褐色土 細かな土器片を多く含む。整地層
3. 灰茶褐色砂質土 鉄分沈着してやや茶色味を帯びる
4. 茶灰褐色土
5. 暗褐色土 灰色砂を多く含む
6. 暗茶褐色砂 古墳時代前期の土器を多量に含む
7. 暗黄褐色粘質土
8. 暗灰褐色砂
9. 黄褐色粘質土
10. 暗灰褐色粘質土
11. 黒褐色砂質土
12. 灰茶褐色砂質土
13. 暗黄褐色粘質土
14. 暗褐色粘質土
15. 褐色粗砂
16. 暗茶褐色粘質土 白色細砂を少量含む
17. 茶褐色粘質土 薄い白色細砂層を数枚含む
18. 白色砂
19. 褐色粘質土
20. 白色粗砂
21. 褐色粘質土
22. 黒褐色砂質土
23. 白色粗砂
24. 白色砂
25. 黒色砂
26. 灰茶褐色砂質土
27. 黒褐色砂質土
28. 暗灰茶褐色砂質土
29. 黄褐色砂
30. 暗褐色砂質土
31. 暗褐色砂質土 黄褐色砂を多く含む

Ⅱ区東西ベルト土層

H=2.80m

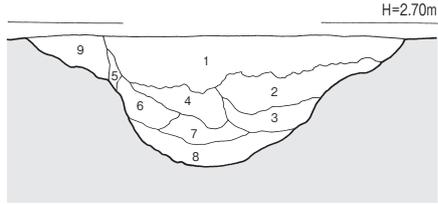


1. 茶褐色土 炭化物小片含む
2. 灰茶褐色土
3. 茶褐色砂質土
4. 暗灰褐色土 灰白色シルトブロック(谷中のシルト)を含む
5. 茶褐色砂質土 黄色砂を多く含む
6. 灰褐色砂質土
7. 茶褐色土
8. 茶灰褐色土
9. 灰褐色砂質土 灰白色シルトの小ブロックを含む
10. 暗褐色土
11. 灰色砂質土
12. 褐色砂
13. 灰白色シルト
14. 暗茶褐色砂質土
15. 暗茶褐色砂
16. 暗褐色砂
17. 茶褐色粗砂 水平方向の堆積
18. 茶褐色粗砂 薄い黒色土層を右下がりのレンズ状に含む
19. 黒色細砂

※16～19層はSD3145埋土

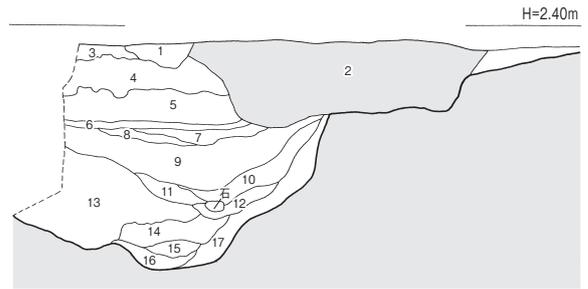
第 14 図 溝土層図 1 (1/40)

SD1092



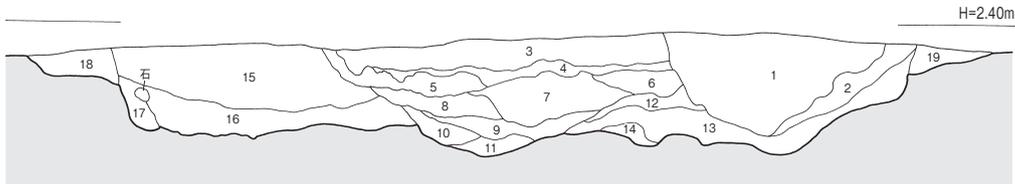
1. 暗茶褐色土 粗砂と土器小片を多く含む
2. 暗茶褐色土 灰色土の小ブロックを多く含む。炭化物小片を少量含む
3. 暗灰色土 暗茶褐色土を少量含む
4. 暗茶褐色土 灰色土の小ブロックを少量含む
5. 明褐色粗砂
6. 暗茶褐色土 明褐色粗砂を右下りの層状に含む
7. 暗茶褐色土 白色粗砂を少量含む
8. 黒褐色粘質土
9. 暗茶褐色土

SD3021



1. SD2106 埋土
2. SD1092 埋土
3. 灰色土
4. 暗灰色砂質土
5. 暗黄白色粘質土
6. 灰色粘質土
7. 灰色粘質土 白色砂を多く含む
8. 白色砂を主とし灰色土を含む
9. 灰色シルト 所々ブロック状に粗砂を含む 木質を少量含む
10. 灰色砂質土 黄色砂を多く含む
11. 白色粗砂 砂は径5mm程灰色土を含む
12. 灰色粘質土
13. 白色砂 砂の径は上層が1mm、下層は8mmで右下がりの堆積
14. 暗灰色粘質土 白色細砂を少量含む
15. 茶褐色砂
16. 褐色粗砂 灰色土をわずかに含む
17. 灰色土 茶褐色砂を多量に含む

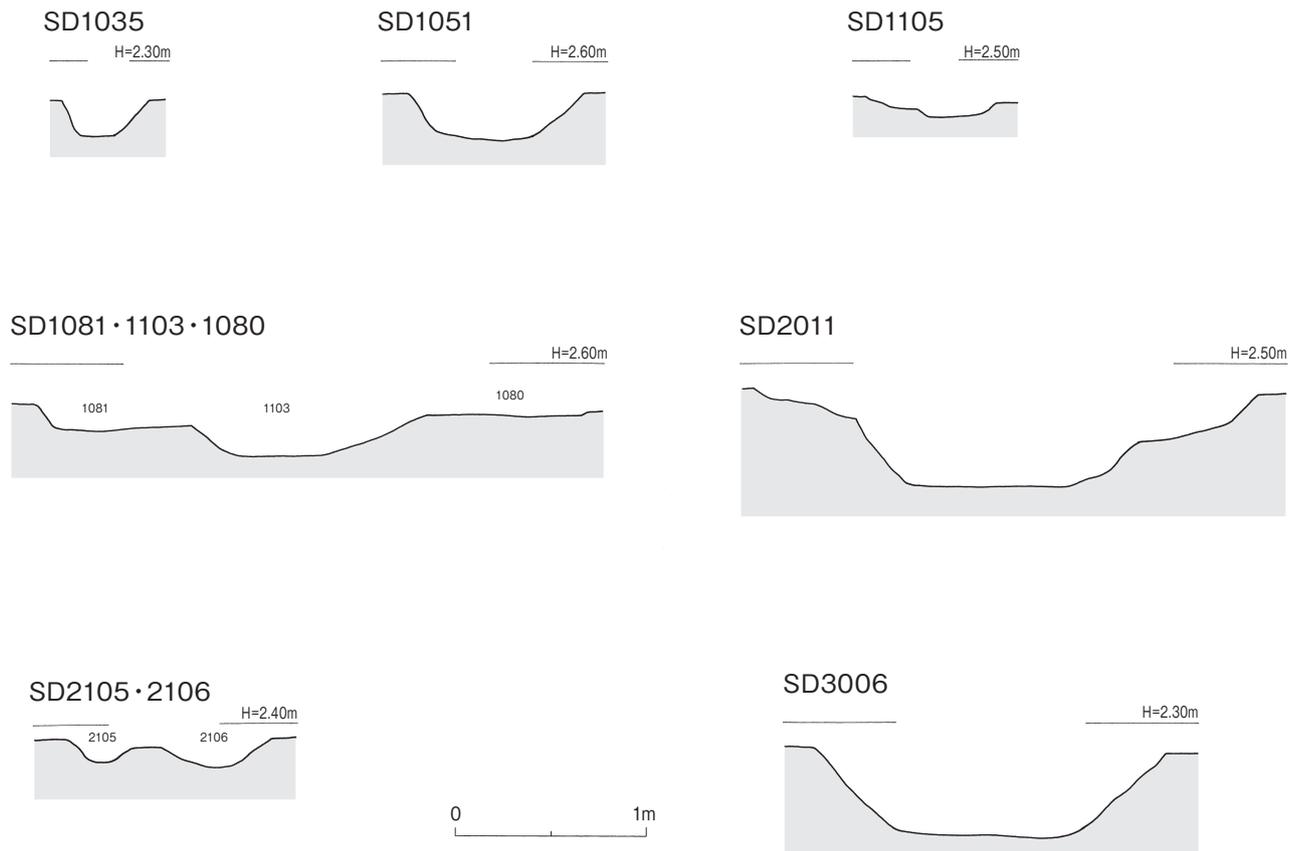
SD1092、2128



1. 灰茶褐色土 SE2137 掘方埋土
2. 灰色シルト
3. 灰褐色砂質土
4. 黒灰褐色砂質土
5. 暗褐色シルト 水性堆積
6. 暗灰褐色土 茶褐色砂質土のブロックを含む
7. 褐色粗砂と黄白色砂の互層 1層の厚さは1cm以下
8. 暗灰褐色土
9. 褐色シルト 白色細砂を多く含む
10. 暗灰色細砂
11. 黒褐色土 ドベ
12. 灰色シルト
13. 黒灰褐色粘質土 炭化物小片含む
14. 黒褐色粗砂
15. 暗茶褐色砂質土 暗黄褐色砂と黒褐色砂を多く含む
16. 黒色砂
17. 黒色砂 黄色砂を少量含む
18. 灰褐色砂質土 黄色砂を多く含む
19. 暗灰褐色砂

第15図 溝土層図2 (1/40)

0 1m



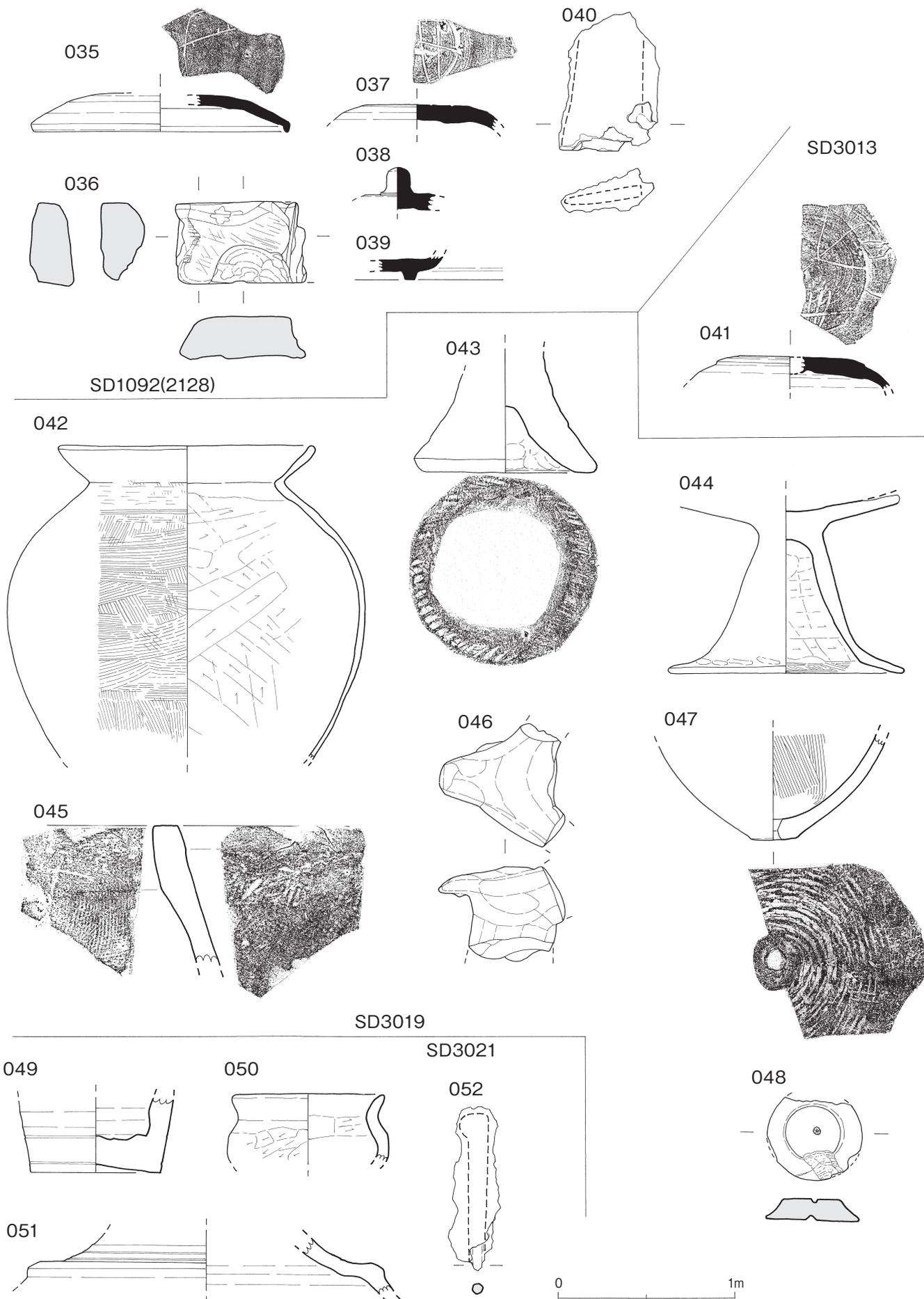
第 16 図 溝断面図 1 (1/40)

呈す。その他に須恵器坏、須恵器甕などが出土している。遺構の時期は 8 世紀頃と思われる。

SK3146 (第 11 図) 調査区北端の砂丘上に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構の東側上半を削平されており、平面形はいびつである。現状で東西 150cm、南北 118cm、検出面からの深さ 48cm を測る。掘方断面は逆台形である。埋土は黒褐色土である。埋土中から甕 (古墳時代前期)、壺 (弥生時代後期前半)、高坏等が出土した。古墳時代前期頃と思われる。

SK3149 (第 11 図) 調査区北端の砂丘上に位置する。1 面から 2 面目の掘り下げ中に甕が出土し、その後砂丘面まで下げたところ、土坑の掘り込みを確認した。平面形は楕円形を呈し、主軸は N - 78° - W を測る。長径 94cm、短径 87cm、砂丘面からの深さ 26cm を測る。甕と土師壺の出土位置から本来は 70cm ほどの深さがあったと考えられる。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は暗茶褐色砂である。出土遺物 (第 13 図 031 ~ 033)。031 は土師器壺である。口径 9.6cm、器高 8.9cm を測る。内外面ともにぶい赤褐色を呈す。調整は外面口縁部が横ナデ、胴部がハケ、内面は口縁が横ナデ、胴部上半はナデ、下半はヘラ削りである。0.5 ~ 1 mm の白色砂と雲母片を少量含む。032 は土師器甕口縁である。橙色を呈す。033 は甕である。復元口径 17.2cm、器高 17.6cm を測る。色調は外面がにぶい橙色で上半部に黒斑がある。内面は橙色を呈す。調整は口縁部は内外面とも横ナデ、その他は外面が縦ナデ、内面は縦方向のケズリを施す。古墳時代前期末頃か。

SK3151 (第 12 図) 調査区北西端の砂丘上に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延びる。現状で南北 120cm、東西 81cm、検出面からの深さ 62cm を測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は暗茶褐色砂である。出土遺物 (第 13 図 034) は弥生時代後期の甕口縁である。外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈す。胎土は白色砂と赤色粒、雲母片を少量含む。その他に弥生時代後期後半の壺、高坏が出土した。弥生時代後期末に属する可能性がある。



第 17 图 沟出土遺物実測图 1 (1/3)

SK3158 (第 12 図) 調査区北端の砂丘上に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で検出した。SK3149 と東側の谷を結ぶ溝状の遺構である。西端を SK3149、東端を谷 (SX3156) に切られ、現序で東西 1.2 m、幅 67cm、検出面からの深さ 13cm を測る。3149 に接した部分が深くなっており、深さ 29cm を測る。埋土は暗茶褐色砂である。遺物は古墳時代前期の壺片が出土した。

SK1065 (第 12 図) 調査区の中央部に位置する。Ⅱ区 1 面で検出した。生け垣の痕跡である SX1062 と重なっており、遺構の遺存状態は不良である。遺構平面は溝状を呈し、主軸は N - 16° - E を測る。長径 183cm、短径 69cm、検出面からの深さ 18cm を測る。長軸側の掘方断面は浅皿状、短軸側の断面は逆台形を呈す。底面から 10cm ほど浮いた状態で完形の土師皿が 1 枚出土した。埋土は黄褐色砂質土である。出土遺物 (第 14 図 008 ~ 010)。008 は土師皿で径 9.8cm、器高 1.2cm を測る。底部はヘラ切りで切り離し後ナデしており、後は内外面とも回転ナデを施す。009 は須恵器高台付き坏で復元底径 10.2cm を測る。外面はにぶい黄橙色、内面は灰白色を呈す。調整は全体に回転ナデを施す。胎土は 0.5mm 程の白色砂と黒色粒を少量含む。010 は移動式竈と思われる。色調は内外面ともにぶい黄橙色を呈し、調整は外面がハケ後ナデ、内面は下端がハケ後ナデ、上はヘラ削りである。この他に土師坏 (ヘラ切り)、土師碗、須恵器坏蓋などの遺物が出土した。土壙墓の可能性があり、時代は 11 世紀前後と考えられる。

SK3023 (第 12 図) 調査区南端近くに位置する。Ⅰ区 1 面で検出したがガラス瓶などが出土したため上場の実測だけ行い、第 3 面の調査時に底面まで掘り下げた。遺構は長方形を呈し、主軸は N - 33° - W を測る。長径 362cm、短径 124cm、第 1 面の検出面から底面までの深さ 103cm を測る。壁面に沿って径 18 ~ 35cm、深さ 18 ~ 29cm の柱穴が並ぶ。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、掘方断面は箱形を呈す。遺物はガラス瓶の破片などが出土した。道路を挟んで西側 80 m に位置する第 11 次調査で同様の遺構が出土したが、元地主の方に「戦時中に防空壕があって、戦後も入ることができた」と伺ったのでこの SK3023 も同様に防空壕であった可能性が高い。

3) 溝

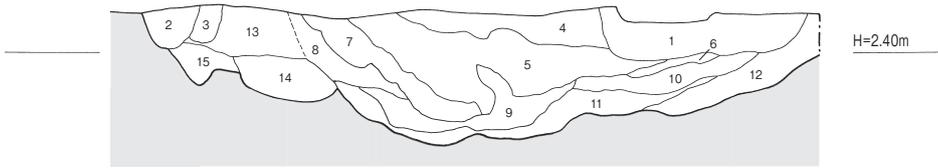
SD1092 (第 15 図) 調査区中央部の西寄りに位置する。Ⅱ区 1 面で検出した。調査西縁から出てやや屈曲して東南方向に続いて調査区を横断する。Ⅱ区では砂丘を切るため検出できたが、先に調査したⅠ区 1 面では一部輪郭を検出したのみで溝とは気がつかず掘り下げていない。2 面目では溝に気がつき SD2011 として掘り下げたものの、土層図の 2・3 層の一部にとどまっており全体を確認することはできなかった。埋土中から龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁瓶などが出土した。13 世紀頃と思われる。

SD1035 (第 16 図) 調査区の南東隅に位置する。Ⅰ区 1 面で検出した。南東隅は北西側より一段低く、近世～近代の埋め土を除去したところ。近世～近代と思われる水田 (1007) を確認した。SD1035 は 1007 の耕作土と床土を取り除いた下で検出した。主軸を N - 18° - E にとる。調査区内での長さ 5.6 m、幅 38 ~ 52cm、深さ 20cm を測る。掘方断面は逆台形を呈す。遺物は出土していない。

SD1051 (第 16 図) 調査区西側で検出した。Ⅱ区では 1 面で検出したが、Ⅰ区では 2 面目で検出している。調査区南西端から北側に延びる。この時点の主軸は N - 16° - E を測る、南西端から 11m のところで西北へ向きを変え主軸を N - 37° - W にとる。西北へ 8 m 直進したところで緩やかに弧を描きながら調査区外にでる。調査区内での長さ 23.5 m、幅 70 ~ 90cm、深さ 22 ~ 35cm を測る。溝断面は逆台形を呈す。出土遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類などである。13 世紀頃と思われる。

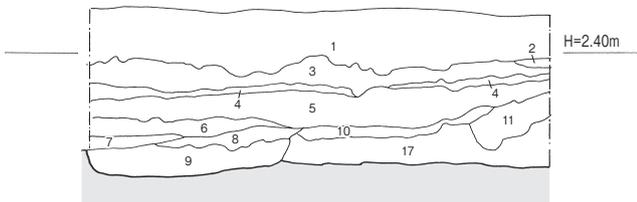
SD1086 (第 16 図) 調査区南西部に位置する溝で SD1051 の西側に沿って巡る。溝中央を SD1103 に切られる。SD1051 とは南側では接しているが、南端から 6 m 程で 1051 から離れ、最大で 60cm 程

3144



1. 灰褐色砂質土
2. 灰茶褐色土
3. 灰褐色土
4. 茶褐色土
5. 灰褐色土 黄褐色砂を多く含む
6. 灰褐色砂
7. 茶褐色土
8. 灰褐色土
9. 黄褐色砂 灰色土を含む
10. 暗黄褐色砂
11. 灰褐色粘質土
12. 茶灰褐色砂質土
13. 灰茶褐色土
14. 灰褐色土 炭化物小片と黄色砂を多く含む。
15. 暗灰褐色土 炭化物を多く含む

I 区南壁西端土層

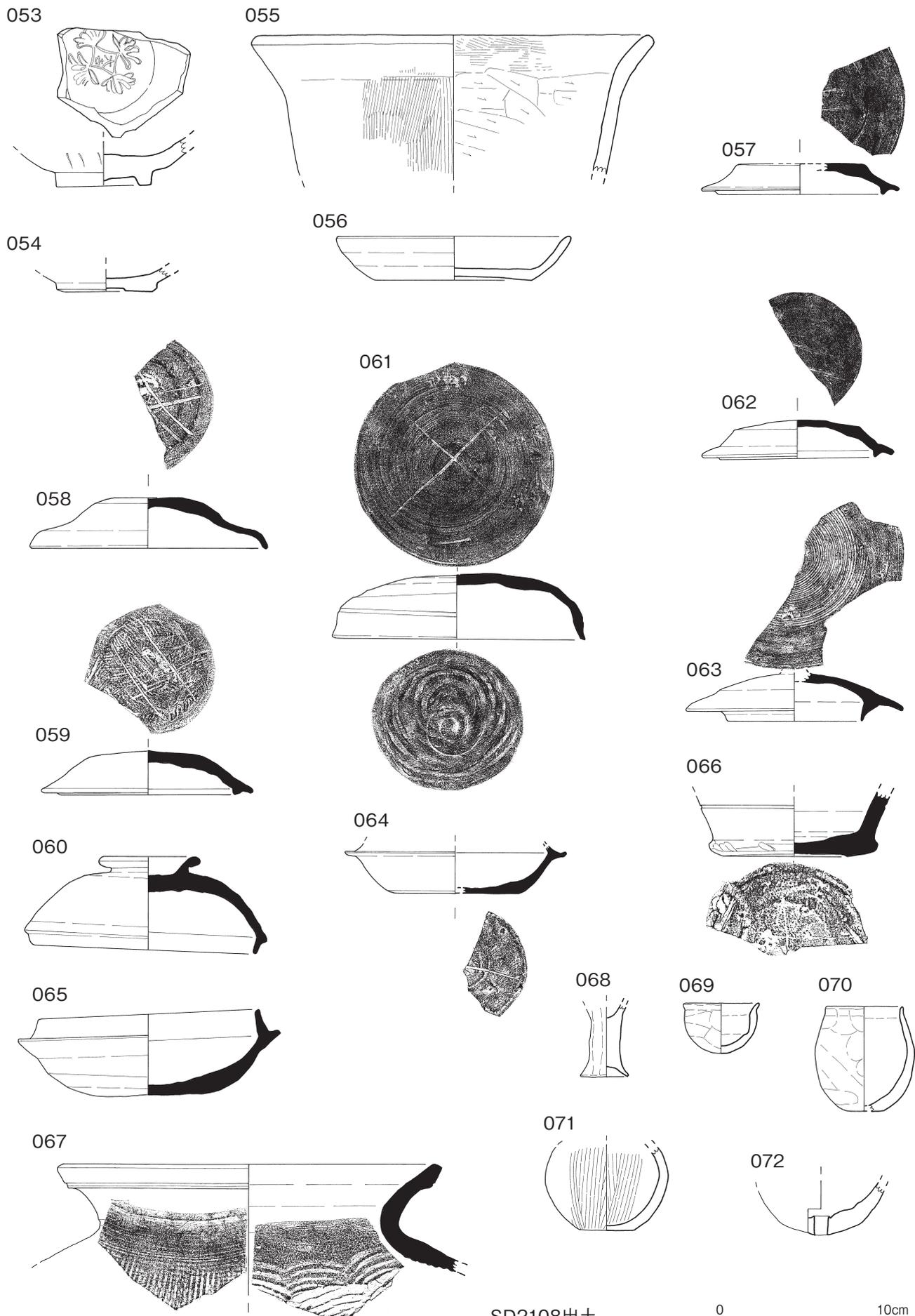


1. 茶褐色土 灰色土(耕作土ブロック)を含む 近世から近代の埋め立て土
2. 暗灰褐色土 炭化物多く含む
3. 灰色土 耕作土 近世以降
4. 黄褐色粘土 水田床土
5. 黄灰褐色粘質土 粗砂を少量と土器片を多く含む
6. 黒灰褐色砂質土
7. 黒灰褐色粘質土
8. 灰白色粗砂
9. 暗灰色砂質土 SK3002 埋土
10. 灰茶褐色土
11. 茶褐色砂質土 土器小片含む
12. 暗灰色砂質土 SK3003 埋土

6・7層は谷全体に広がる整地層で古墳時代から古代の遺物を多量に含む

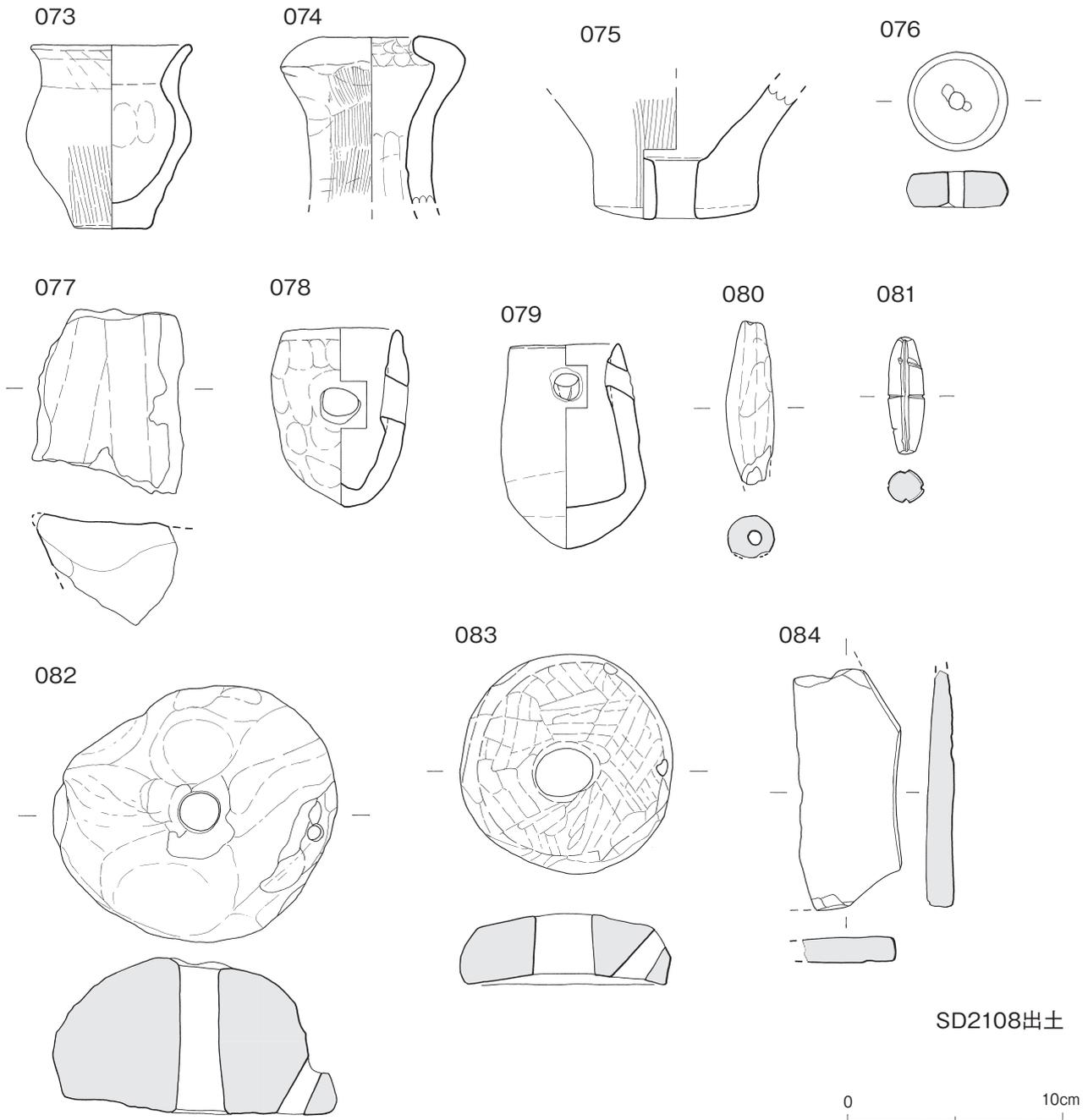
第18図 溝土層図3 (1/40)

0 1m



SD2108出土
第19図 溝出土遺物実測図2 (1/3)

0 10cm



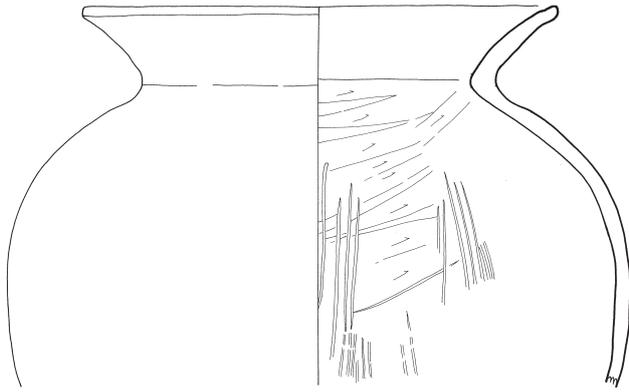
第 20 図 溝出土遺物実測図 3 (1/3)

の距離があく。接した部分では 1086 と 1051 の両方を SD1103 が切っているため、1086 と 1051 の直接の切り合いはない。調査区内での長さは 18m 前後、幅 1.5 ～ 2 m、深さ 4 ～ 10cm 前後を測る。溝断面は浅皿状を呈す。第 16 図で中央が逆台形に窪んでいるのは SD1103 である。遺構の掘り下げは 2 面で行ったが、I・II 区とも 1 面調査時に掘方の痕跡を検出しているため、本来は 1 面から掘り込んでいたものである。SD1105 は同じ溝である。断面では 1086 に比べて浅く、北側から南側に向かって深くなっている。出土遺物 (第 17 図 035・036)。035 は須恵器坏蓋で復元口径 14.4cm を測る。灰色を呈す。外面天井部にヘラ記号がある。036 は滑石片である。石鍋からの再加工中か。7.4 × 4.7 × 2.4cm を測る。

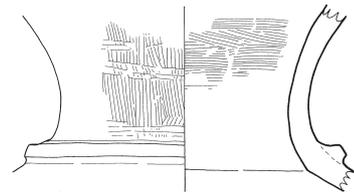
SD1103 (第 16 図) SD1081 の中央を流れる溝で、1081 が埋没後に掘り直された溝と思われる。幅は 40 ～ 120cm、深さ 6 ～ 13cm 前後を測る。溝断面は浅皿状を呈す。龍泉窯系青磁碗の小片が出土した。

SD2011 (第 16 図) 調査区中央部東縁に位置する。II 区 2 面で検出した。東端では幅 2.6 m を測るが、すぐに北西側に屈曲して主軸を N - 53° - W にとる。II 区で検出した 1092・2106 とは幅と深さが異な

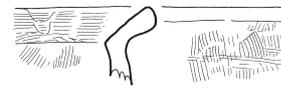
085



086

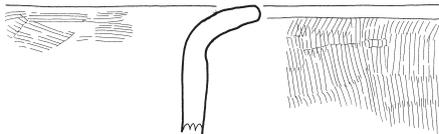


087



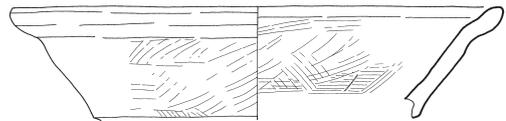
SD3145

088



SD3158

090



089



0 10cm

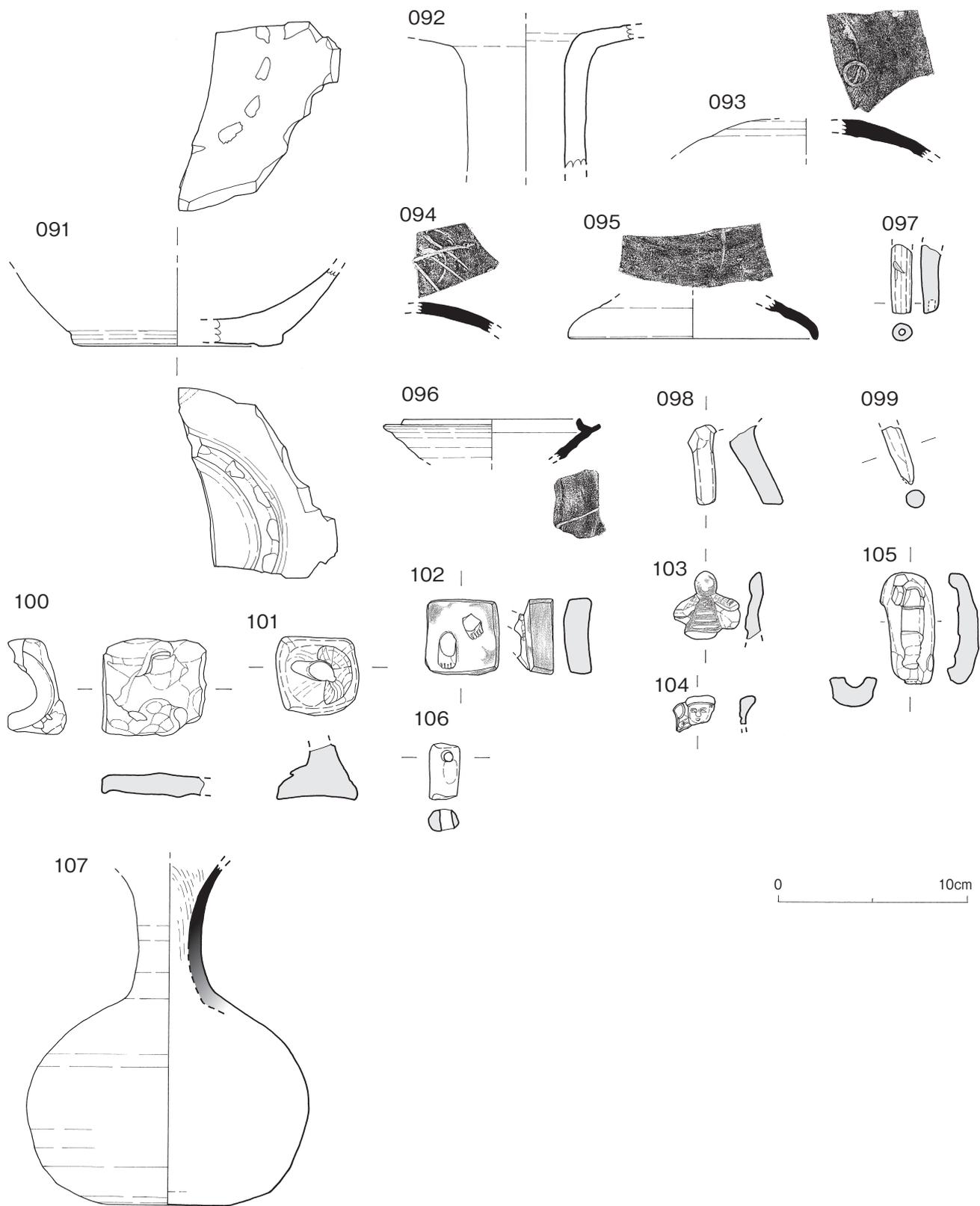
第 21 図 溝出土遺物実測図 4 (1/3)

るが、谷の堆積の中で 1092 と 2106 の一部のみ掘り下げたもので第 15 図にある 1092 の土層図の 2・3 層にあたるものと思われる。断面は逆台形を呈す。

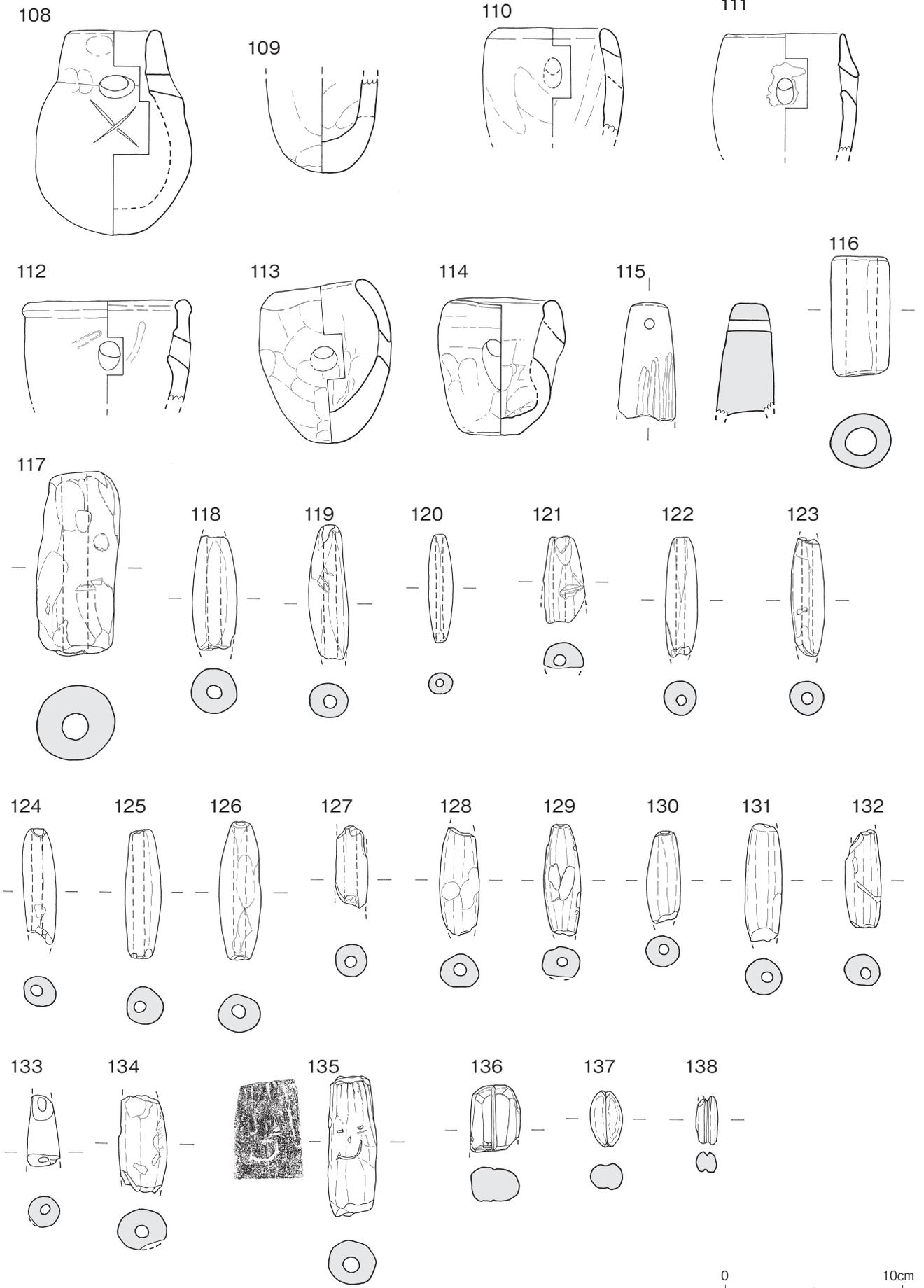
SD2105 (第 16 図) 調査区中央部に位置する溝で主軸を N - 50° - W にとる。I 区では検出できなかったが、立ち上がっていた可能性もある。検出した範囲で長さ 3.5 m、幅 31 ~ 39cm、深さ 7 cm を測る。溝断面は逆台形を呈す。遺物は青磁片、白磁片、陶器片、土師坏(糸切り)、土師皿(灯明皿として使用)が出土した。古代末から中世初頭と思われる。その他に須恵器甕、須恵器小碗、須恵器坏蓋(8世紀と6世紀)、須恵器坏(8世紀)など古代の他に古墳時代や弥生時代中~後期の土器片も出土した。

SD2106 (第 16 図) 調査区中央に位置し、SD2105 に沿って蛇行しながら北西側に延びる。主軸は SD1092 を切るが、土色が似ており、西側端部は不明である。2105 と似た位置で消失したので立ち上がった可能性がある。確認できた範囲で長さ 5.5 m、幅 41 ~ 57cm、深さ 8 ~ 14cm を測る。遺物は白磁碗、白釉陶器片、陶器片、土師坏(糸切り)、土師皿(灯明皿)が出土した。貿易陶磁器が小片で詳細な時期は不明であるが、古代末から中世初頭頃と思われる。遺物はその他に須恵器坏蓋(8世紀と6世紀)、須恵器碗などの古代の他に古墳時代後期の須恵器模倣土師器甕や弥生時代後期の壺、土錘(小片2点)などが出土した。

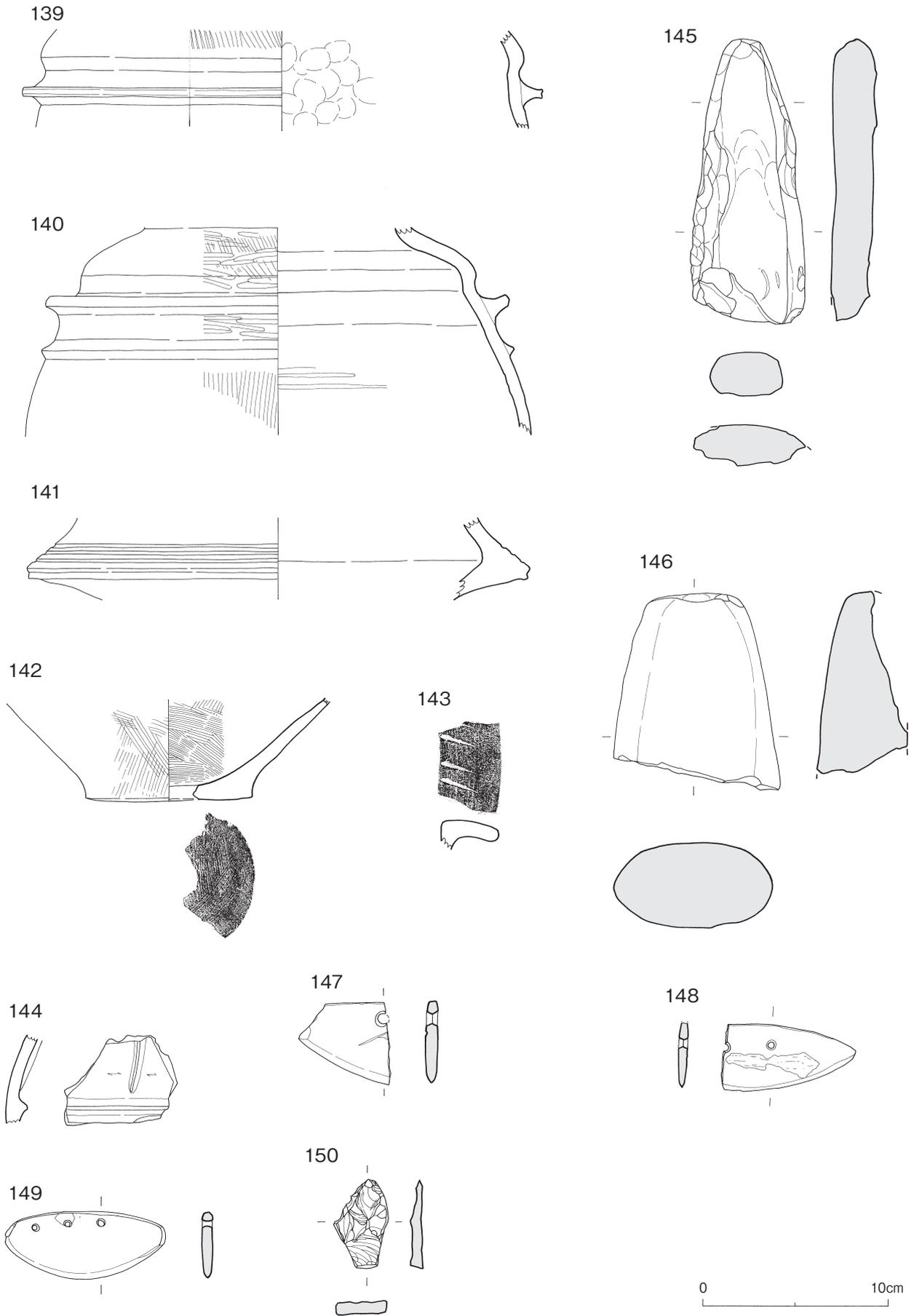
SD2128 (第 15 図) 調査区の中央部に位置する。SD1092 に切られながら並行する。2128 が埋没した後に掘り直したのが 1092 である。I 区では検出できていないが、SD2011 と同一の溝と考えられるので、調査区を横断するものと考えられる。幅 2.2 ~ 2.9m、深さ 30cm を測る。遺物は龍泉窯系青磁碗 I・II 類や白磁碗 IV 類、褐釉陶器瓶、陶器播鉢、陶器水柱が出土した。陶器播鉢は小片であるが、近世まで降る可能性がある。その他の陶磁器は 11 世紀後半 ~ 13 世紀前半が多い。その他に土師坏(糸切り)、土師皿(糸切り)、6 ~ 8 世紀の須恵器、黒色土器 B 類碗、甌、古墳時代前期の土器(碗、甕、高坏)、弥生時代中期 ~ 後期の土器(壺、器台、甕棺)など多種の遺物が出土した。遺物実測図(第 17 図



第22図 1007 出土遺物実測図 (1/3)



第 23 图 漁労関係遺物実測図 (1/3)



第 24 図 弥生時代遺物実測図 (1/3)

037～040) の037・038は須恵器坏蓋である。027は外面にヘラ記号を施す。028はつまみがつく。039は須恵器高台付坏である。040は鉄片である。7.8×5.5×2.4cmを測る。図面左側が刃部であろうか。

SD3006(第14図) 調査区南側に位置する。I区3面で検出した。調査区の南西端から北側に延びるが、西側に緩やかにカーブを描きながら約10m程で立ち上がる。2面目で検出したSD1103と重なるが、1103より幅が広い。最大幅174cm、検出面からの深さ35cmを測る。埋土はレンズ状の堆積で灰～暗灰褐色粘質土を主とし、間に砂層を挟む。普段は少し滞水しているところに時々水が流れて砂が流入したものであろうか。埋土中から龍泉窯系青磁碗や白磁皿(11～12世紀)、土師碗、土師坏、土師皿が出土した。12世紀後半頃と思われる。出土遺物(第13図027～030)。027は糸切りの土師坏である。復元口径12.6cm、器高2.5cmを測る。全体に回転ナデを施す。にぶい黄橙色を呈す。028は糸切りの土師皿である。復元口径9cm。器高1.4cmを測る。にぶい黄橙色を呈し、白色砂と雲母片を少量含む。029は須恵器高坏である。復元口径13cmを測る。灰色を呈す。030は須恵器坏蓋である。外面にヘラ記号を施す。遺物はその他に須恵器坏蓋、須恵器坏、須恵器高台付坏などの6～8世紀の土器や弥生時代中期から古墳時代にかけての土器、棒状土製品、鉄滓など多種の遺物が出土している。

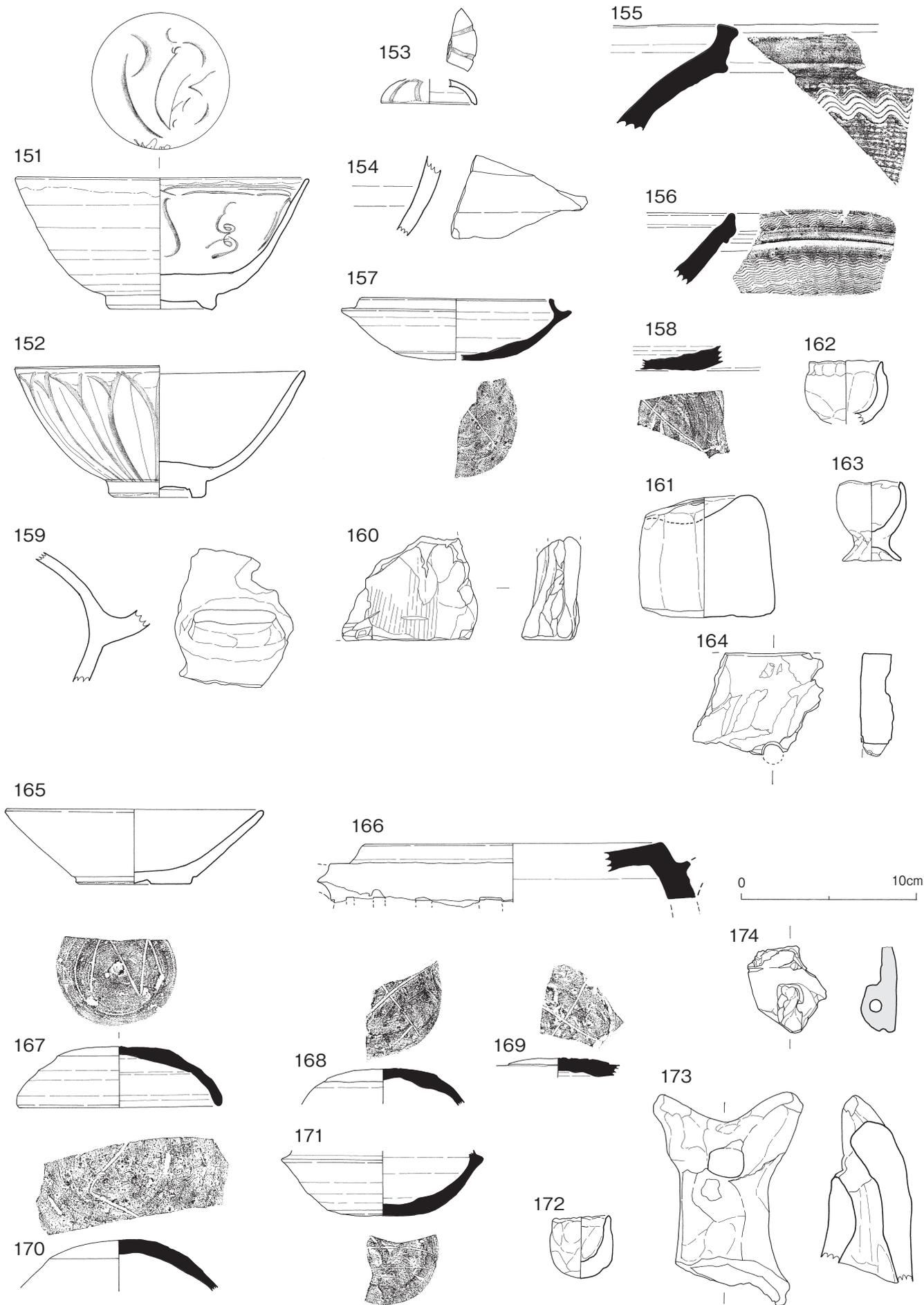
SD3019(第14図) 調査区中央の西縁に位置し、調査区中央で立ち上がる。I区3面目で検出した。調査区西壁で幅5.3m、深さ90cmを測る。断面は浅皿状を呈す。褐色～暗褐色粘質土を主とし、褐色や黒色、白色砂などの砂層を挟む。最下層は若干滞水していた可能性がある。砂層は流水による流れ込みと壁面の崩落によるものと思われる。遺物は龍泉窯系青磁皿や白磁碗、土師碗、滑石片、鉄滓などが出土した。いずれも小片である。12～13世紀頃と思われる。出土遺物(第17図042～048)。

042は土師器甕である。復元口径14.4cmを測る。内外面ともににぶい黄橙色を呈す。調整は口縁は内外とも横ナデで、その他は外面上半が縦ハケ後横ハケ、下半は縦ハケである。内面はヘラケズリを施す。043は脚部である。底径10.2cmを測る。色調はにぶい黄橙色を呈し、調整は外面がナデ、内面は横ナデとユビナデを施す。044は土師器高坏である。底径13.2cmを測る。色調は内外面とも橙色～褐灰色で調整は外面全体に横ナデ、脚部内面は横方向のヘラケズリを施す。底部に刻み目のような凹みがある。045は内外面とも橙色を呈す。調整は外面端部がナデ、その他には細かな格子タタキを施す。内面は端から3.5cmがヘラケズリ、その下側はハケを施す。瓦に似るが、内面側の調整や形が他の瓦とは異なる。046は支脚である。脚の大半と角部分を欠損する。047は甑である。底部は小さく径3.3cmを測り、焼成前に孔を穿つ。色調は黄赤褐色～淡灰褐色を呈す。調整は外面がタタキ、内面は縦ハケで孔の周囲はヘラケズリを施す。048は滑石製紡錘車の未製品で、両側から穿孔中である。径5.3cm、高さ1.2cmを測る。その他に6～8世紀の須恵器坏蓋や須恵器高台付坏、古墳時代の甕、高坏、器台、小型丸底壺、甑や弥生時代の小型鉢、袋状口縁壺などが出土した。

SD3021(第6図) 調査区北東端に位置し、自然流路もしくは谷の可能性がある。遺構の東側は調査区外に伸びており、調査区内では幅3m、深さは50cmを測る。埋土は褐灰色粗砂である。出土遺物(第17図049～052)。

049は陶器瓶底部である。復元底径7.4cmを測る。外面は灰色、内面は赤褐色を呈し、胎土には白色砂と黒色粒を少量含む。050は土師器小型壺で復元口径8.6cmを測る。内外面ともににぶい橙色を呈し、胎土は0.5mm程の白色砂と赤色粒と雲母片を少量含む。051は土師質で器台の脚部かなにかと思われる。色調は内外面とも浅黄橙色を呈し、胎土には1mm程の白色砂と赤色粒、雲母片を少量含む。調整は全体に回転ナデを施す。052は鉄釘である。先端を欠く。遺存長9.3cmを測る。

SD3145(第14図) 調査区北東端部に位置する。II区2面で検出した。砂丘の東端をかすめながら南北方向に蛇行する溝である。土層図は第14図に載せたII区東西ベルト図の16～19層が3145にあたる。東西ベルトから北側で長さ7m、最大幅2m、深さ50cmを測る。埋土は粗砂を主とする。べ



第25図 古墳時代～古代出土遺物1 (1/3)

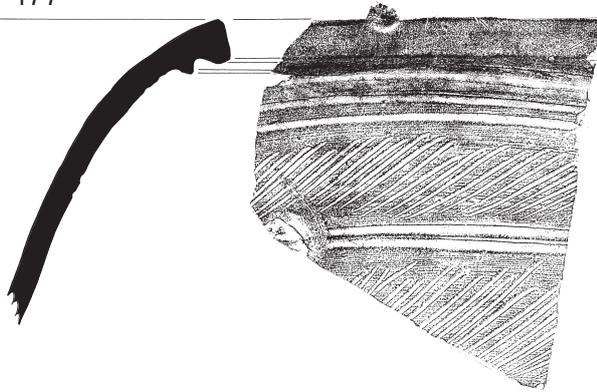
175



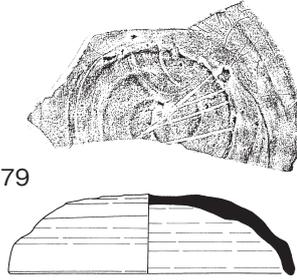
176



177



179



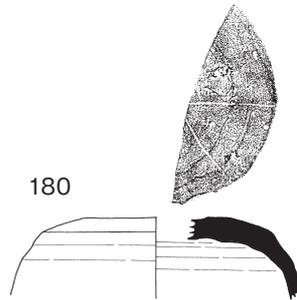
181



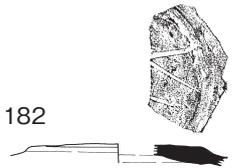
178



180



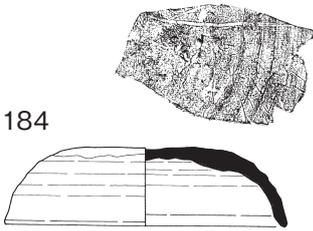
182



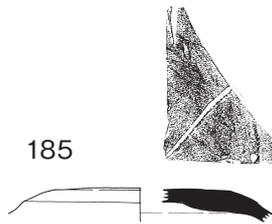
183



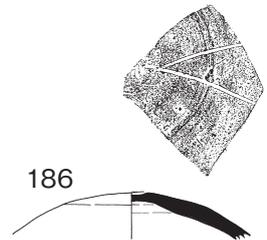
184



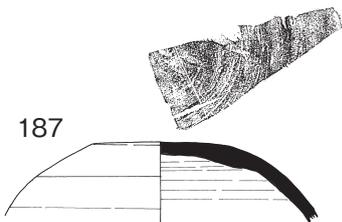
185



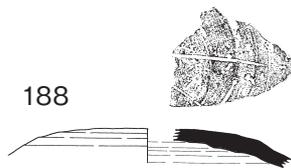
186



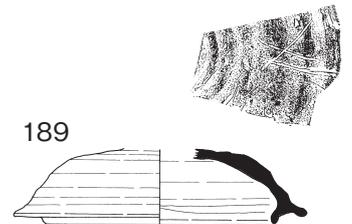
187



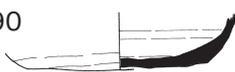
188



189



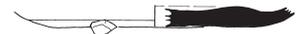
190



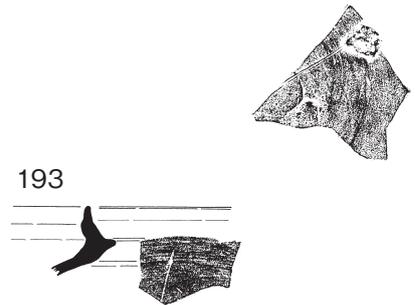
191



192

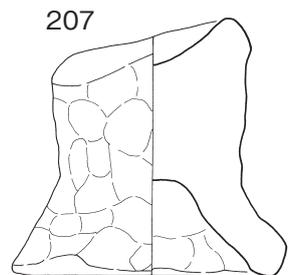
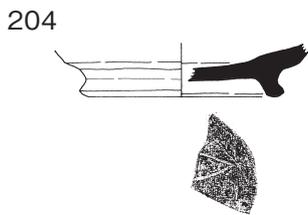
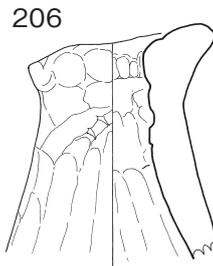
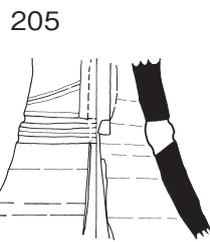
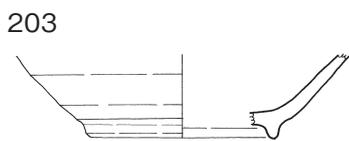
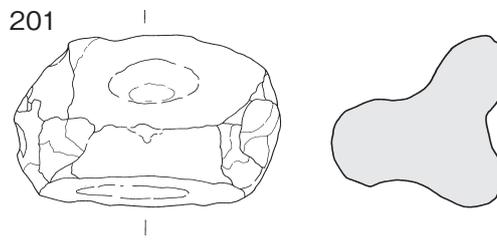
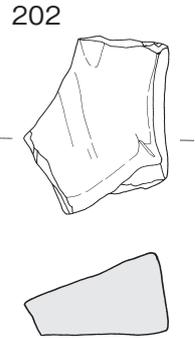
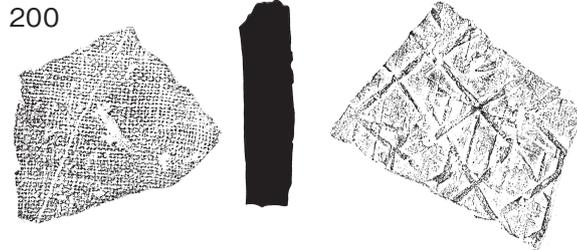
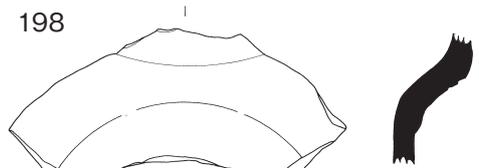
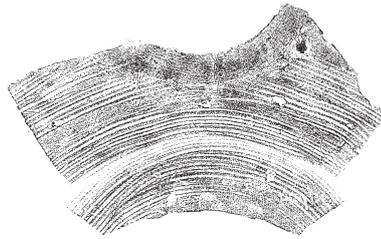
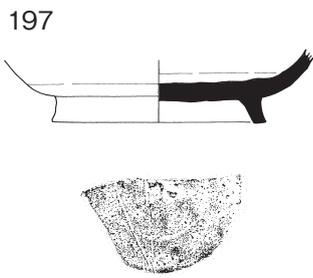
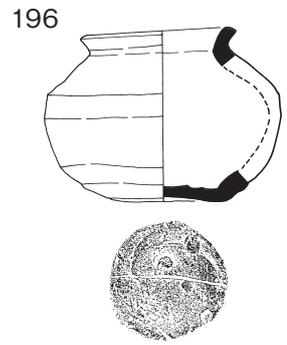
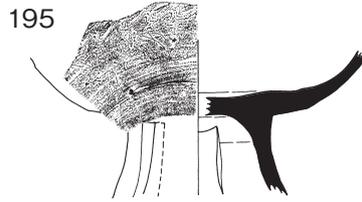
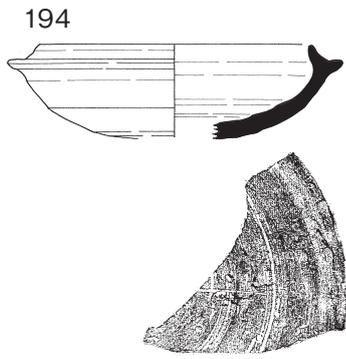


193



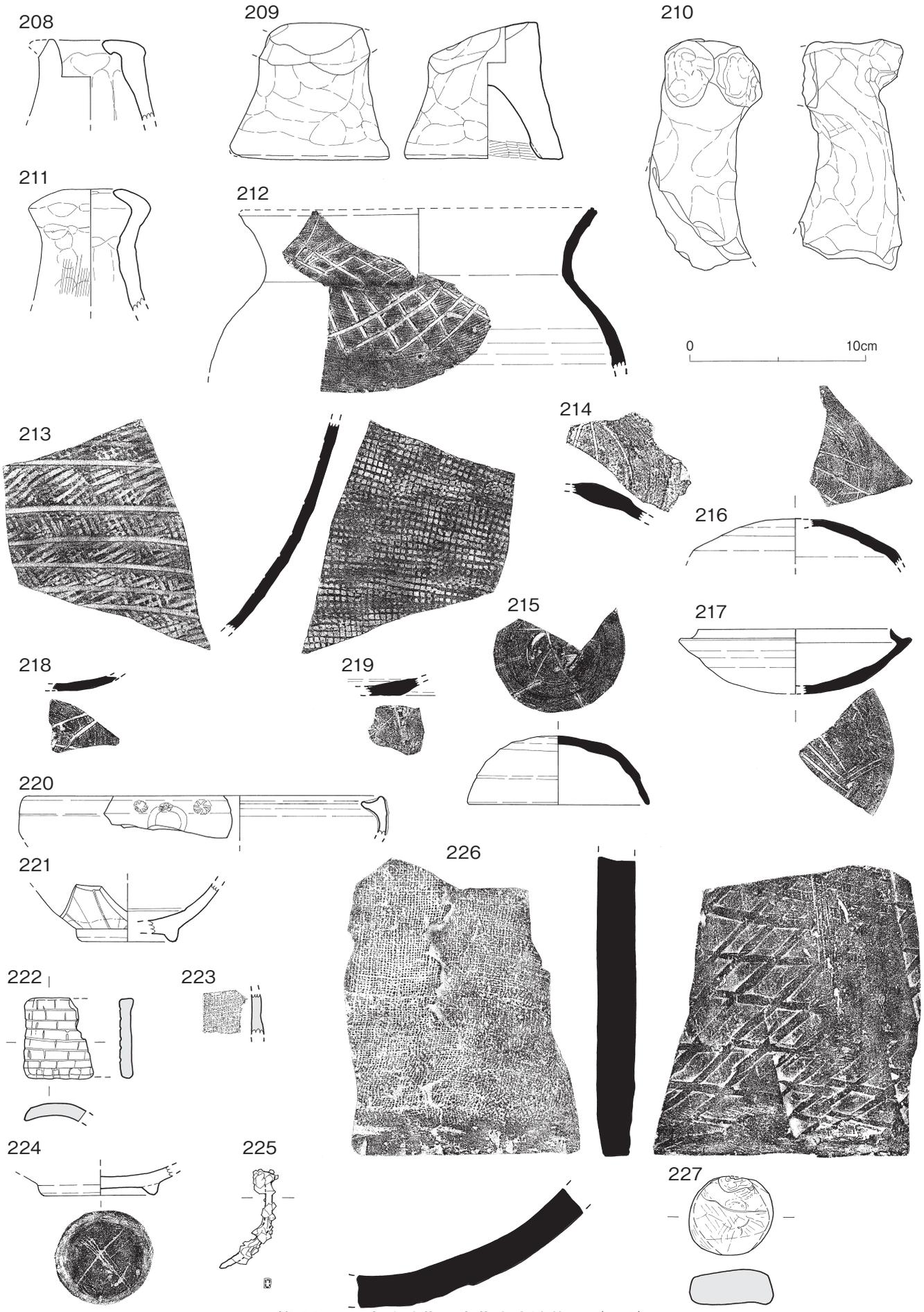
0 10cm

第 26 図 古墳時代～古代出土遺物 2 (1/3)



0 10cm

第27図 古墳時代～古代出土遺物3 (1/3)



第 28 图 古墳時代～古代出土遺物 4 (1/3)

ルトから南は3面の調査で確認したところ、砂丘の際をかすめながら南下し、3033に合流する。出土遺物（第21図085～087）。085は土師器甕である。復元口径18.6cmを測り、口縁は横ナデ、内面胴部はハケ後ヘラケズリを施す。外面胴部はヘラナデで煤が付着する。086は弥生時代の壺、087は弥生時代中期の甕である。遺物は古墳時代前期の高坏が出土した他、弥生時代中期～後期にかけての壺や甕が出土した。古墳時代前期と考えられる。

SD3156（第5図） 調査区北端のSE3147内に位置する。長さ90cm、幅24cm、深さ8cmを測る。出土遺物（第21図088～090）。088・089は甕口縁、090は高坏で復元口径19.4cmを測る。弥生時代後期か。

4) 谷

SX3144（第18図） 調査区北側の砂丘上で東側に解析する谷もしくは溝である。中央に南北方向のベルトを残し東側を2108としたが、同一の谷である。南北4.5m、東西7mで東端はSD3145までのびる。埋土は上層は灰褐色土、下層は灰褐色砂質土と黄褐色砂を主とするレンズ状の堆積である。遺物は龍泉窯系青磁碗の他に須恵器坏蓋（8世紀、6世紀前半）、須恵器提瓶、須恵器甕などが出土した。12～13世紀頃の埋没である。出土遺物（第19・20 053～84）。053は龍泉窯系青磁碗である。上層出土で他の遺構から紛れ込んだ可能性がある。055は土師器甕である。復元口径22.4cmで橙色を呈す。056は糸切りの土師坏で復元口径13cm、器高2.5cmを測る。057～063は須恵器坏蓋である。060を除いて外面にヘラ記号を施す。064・065は須恵器付きである。066は須恵器底部で復元底径9.4cmを測る。068は脚で復元底径2.6cmを測る。明赤褐色を呈し、細砂を少量含む。069は小型鉢で復元口径4.2cm、器高2.85cmを測る。口縁はナデ、その他はヘラナデを施す。070は小型甕で復元口径4.4cm、器高5.9cmを測る。明赤褐色を呈す。071は小型壺で復元底径4.7cmを測る。072は底部に穿孔がある。赤褐色を呈す。073は壺である。074は器台、075は上下の判別がつけにくい底部に穿孔を施す。076は土製紡錘車で45.7gを測る。077は不明土製品である。移動式竈に似るが、断定できない。078・079は蛸壺。080は土錘で下端を欠く。081～083は滑石製石錘で081は18.66g、082は1480g、083は531gを測る。084は砂岩製砥石で3面を砥面とする。その他弥生時代～古墳時代にかけての土器が多く出土した。遺物としては弥生時代後期の遺物が多い。また、各時期通して甕の破片が多く出土した。

5) 水田

SX1077（第18図） 調査区南端で検出した。西側に隣接する1次調査でも確認されており、近世以降とされている。今回の調査でも耕作土下の床土から近世から近代の磁器碗、磁器小碗、黒色磁器碗が出土した。その他には龍泉窯系の細形連弁青磁碗（13～14世紀）や埴塙、鉄滓、また耕作土下の茶褐色包含層からは羽口が出土しており、時期は古代（6～8世紀）か中世（11～13世紀）と思われるが、製鉄関連の遺構が存在したことが判る。出土遺物（第22図091～107）091は越州窯系青磁碗である。092は土師質器台、093～096は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号がある。097～099は土製脚、100～104は土製の人形、105は土製鋳型、106は土錘か。107は須恵器長頸壺である。

6) 動物遺存体 2点出土した。

1007（水田）からイルカ類の腰椎が1点出土した。横突起は途中から棘突起は根元に近い部分で折れているが刃物を使用した痕跡はなく、その他の部分にも解体痕や焦げはみられない。前後の関節面の癒合は終了している。関節面の径が3.8cmと小型である。SD2108上層でウマの歯が1点出土した。遺

存状態が悪く、細片化したため計測できない。

7) その他の遺物

第 23 図 108 ～ 138 は漁撈具である。108 ～ 114 は素焼きの飯蛸壺である。115 は土製で遺存長 6.7cm、径 3.2cm を測る。側面にミガキを施す。端部に径 5 mm の孔を穿つ。錘であろうか。116 ～ 135 は土錘である。135 は側面に線刻と思われる凹みがある。136 ～ 138 は石錘である。いずれも長軸方向の中心に溝を刻む。第 24 図 139 ～ 150 は弥生時代の遺物である。今回の調査では弥生時代の明確な遺構は確認できなかった。139・140 は瓢型土器の肩部である。141 は 2 重口縁壺の口縁部、142 は甕底部で底部中央に焼成後の穿孔がみられる。143 は中期の甕口縁で口縁上面に線刻を施す。144 は弥生中期の壺頸部で赤色顔料を塗布する。145・146 は磨製石斧、147 ～ 149 は石包丁である。砂丘上の集落であるが後背湿地などで稲作を行ったのであろうか。150 は黒曜石剥片である。25 図 151 ～ 164 は I 区 1 ～ 2 面掘り下げ時に出土した。153 は白磁蓋、154 は黒釉陶器片である。155 ～ 158 は須恵器で 159 は土師質の壺で取手がつく。160 は移動式竈片、161 は土師質の器台か。162・163 はミニチュア土器である。165 ～ 173 は I 区 2 ～ 3 面掘り下げ時に出土した。165 は越州窯系青磁碗である。166 は須恵器円面硯である。167 ～ 171 は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号を施す。172 はミニチュアの甕、174 は滑石製品である。173 は土製支脚である。26 図 175 ～ 27 図 202 は II 区 1 ～ 2 面掘り下げ時に出土した。175 は須恵質坏で大型装飾器台の口縁に貼り付けたものである。坏の径は 11cm を越える。179 ～ 194 は須恵質の坏蓋と坏でヘラ記号を施す。198 は須恵器提瓶か。199 は移動式竈片、200 は須恵質瓦である。201 は砂岩製で用途不明である。202 は砥石で 3 面を砥面とする。203 ～ 207 II 区 1 面から出土した。203 は緑釉の椀、204 は須恵器高台付坏で底面にヘラ記号あり。205 は須恵高坏、206 ～ 211 は土製の器台、212 は須恵器壺で側面に線刻を施す。214 ～ 219 は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号を施す。220 は龍泉窯系青磁鉢、221 は白磁碗である。222 は土製品で煉瓦状の線刻を施す。ミニチュアの石垣か。223 は土製品で内面に布圧痕がつく。人形等の一部か。224 は土師椀、225 は鉄釘である。226 は須恵質平瓦である。227 は滑石製円盤である。紡錘車の未製品か。

4 小結

発掘調査では弥生時代中期以降の遺物が多量に出土したが弥生時代の確実な遺構は確認できなかった。遺構は砂丘上で出土した土抗 SK3149 と井戸 2 基が古墳時代まで遡る可能性がある。SK3149 は完形に近い土器を伴うが、井戸 2 基に関しては小片が数点のみであることから、断定しがたい。古墳時代後期遺構から 8 世紀に関しては土抗数基を検出した。この時期の遺物は多く出土しており、特に図 26 の 175 は大型装飾器台の一部で、古墳の副葬品である。北側の丘陵上に古墳が存在した可能性がある。古代の遺物では図 25 - 166 に記載した大型の須恵器円面硯と図 27 - 203 の緑釉椀は寺院もしくは官衙での出土が多いため、本調査区周辺に古代寺院もしくは官衙が存在した可能性を示すものである。12 世紀前後になると井戸や溝、土壙墓等が築かれる。溝は砂丘上からの排水もしくは区画溝と思われる。SD1051 や 1103 等の溝数条は弧を描き、なにかを取り囲むようである。調査区は北端の砂丘上と南側の谷部に別れるが、谷部には茶褐色包含層が厚さ 30cm ほど堆積している。茶褐色土上面で 11 ～ 12 世紀頃の土壙墓があり、それまでには堆積したことがわかる。茶褐色土より下層で検出した遺構は 1 面目で見逃した可能性が有り、堆積した時期に関しては断定しづらい。茶褐色土はほとんど混じりけがなく博多遺跡などで見られる盛り土等とは全く異なる。砂丘上などでみられる茶褐色土に色が似ており、砂丘上から流れ込んで堆積したものであろうか。

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1001	攪乱	現代	コンクリート、モルタル片、近現代陶磁器（褐釉甕、染付皿・碗、化粧瓶）、白磁碗（朝鮮?）、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器杯（6C）、須恵器高台付杯（8C）、土師質大型火鉢、器台（古墳）、甕取手、甕（古墳）、壺（古墳?、弥生後期）、七輪、土器小片（多 弥生土器が数点、多くは古墳時代か）	
1002	攪乱	現代	コンクリート、モルタル片、近世～近代陶磁（鉢、碗等）、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器杯（6C）、須恵器高台付杯（8C）、甕、甕（古墳）、壺、土器小片	
1003	攪乱	現代	龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、白磁片、陶器小碗、陶器播鉢、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器耳壺、須恵器杯（6C中頃）、須恵器杯蓋（へら記号）、土師碗、甕（弥生時代）、壺（弥生後期中頃）、土器小片（弥生～古墳）、滑石石鍋片、鉄滓	
1004	土抗	11～12世紀	白磁碗Ⅳ類、褐釉陶器片、須恵器甕、須恵器杯蓋（8C）、須恵器高台付杯（8C後半）、土師碗、甕（弥生時代）、壺（古墳時代?）、土器小片	いずれも小片
1005	攪乱	現代	須恵器片（横瓶か）、土師質播鉢、土器小片	
1006	柱穴状遺構	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅳ?類、白磁碗Ⅳ類、陶器片、須恵器甕、土師杯（糸切り）、甕（弥生中期）、瓦質平瓦、土器小片（弥生土器が多い）	
1007	水田	近代以降	須恵器提瓶	
1007 水田耕作土床土	水田	近代以降	磁器碗・小碗（近世～近代）、黒色磁器碗（近世?）、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類・細形蓮弁碗（13～14C）、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁小片、陶器播、陶器鉢、陶器瓶、高麗青磁小片、須恵器高台付杯、須恵器甕（破片 多）、須恵器高杯、須恵器甕、須恵器杯蓋（8C）、瓦質火鉢、瓦器片、羽口、七輪、土製人形、瓦（土師質、瓦質）、土師碗、甕（弥生中期～古墳時代 破片多数）、壺（弥生後期～古墳前期）、坩堝、甕取手、高杯、滑石石鍋片、釘、鉄滓、石炭?片、	
1007 床土下茶褐色包含層	水田	近代以降	須恵器杯蓋（7C）、須恵器杯（7C）、須恵器高台付杯、須恵器甕（古墳中～後期）、須恵器杯蓋、須恵器高杯、土師碗、土師杯（へら切り）、土師質高台付杯（須恵器生焼けか?）土師器甕（古代、古墳時代～破片多）、甕取手、羽口、土器小片（多 古墳時代が主）	
1007 1～2層	水田	近代以降	白磁小片、陶器鉢?、須恵器甕、瓦（瓦質）、土器片	
1007 1～2層トレンチ	水田	近代以降	磁器碗・磁器急須（近世以降）、陶器碗（近世）、陶器播鉢、白磁碗Ⅳ類、白磁紅皿、白磁瓶、白磁壺?、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器杯（6C後半）、釘、	
1007 1層	水田	近代以降	ガラス瓶?片、近世～近代陶磁（小碗、皿、小壺等の小片 多）、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁碗、白磁碗Ⅴ類、白磁小片、陶製（大型火鉢、大甕、瓶?、壺、播鉢-近世?、煉瓦 急須、小皿 多器種で小片多）、陶器鉢Ⅰ-1類、白磁皿片、陶器大甕（古代～中世）、須恵器高台付杯（7C後半、8C）、須恵器杯蓋（6C後半～8C）、須恵器杯（6C後半）、須恵器甕、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器高杯、須恵器提瓶、須恵器高杯、須恵器質長頸壺（焼成不良）、土師碗、土師杯（糸切り?）、土師質火鉢、土師質大甕、土師質甕（古墳時代～古代）、土師質壺、土師質高台付杯（8C）、移動式甕、甕取手、高杯、大型二重口縁壺（古墳時代前期）、壺（弥生時代中～後期）、甕（弥生時代?）、土器小片（多量）、七輪、瓦（瓦質 うち軒平瓦が1点）、石炭、	
1007 2層	水田	近代以降	染付磁器片（小碗・小瓶等 近世～近代）、白磁片（碗・瓶等 古代末～近世）、陶器碗、陶器鉢、褐釉陶器注口瓶、陶器播鉢、陶器片、須恵器大甕、須恵器甕（破片 多）、須恵器杯蓋（7C、8C）、須恵器甕、須恵器盤or 盤の蓋、須恵器杯（6C～8C）、須恵器高台付杯、陶器小片、瓦質皿、土師碗、瓦質火鉢?、甕、土師杯、土師皿、移動式甕?、土師器甕（古代、古墳時代）、高杯、土師器杯蓋（7C9）、土鍾（3点）、土師質火鉢、土師杯、滑石片、鉄片、炉壁、土製面子、土製人形、棒状石製品、瓦（瓦質、土師質 -1点に斜格子 後はナデ）、石炭?、樹脂製横楯、	須恵器片多く、一部に胎土、焼成が良いものがある。
1008 (3023)	防空壕			
1009	柱穴状遺構	不明	土器小片（2点）	
1010	攪乱	現代	須恵器甕、甕（古墳時代、弥生後期）、鉢（手づくね）	
1011	柱穴状遺構	12世紀	白磁碗、須恵器甕、須恵器杯蓋（8C）、土師杯（糸切り）、甕（古墳、弥生後期、弥生中期）、土器小片	
1012	柱穴状遺構	古代	須恵器杯蓋、須恵器杯（7～8C、6C後半）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1013	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片（1点）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1014	柱穴状遺構	中世	須恵器甕（3点）、土師器甕（蓆状・青海波紋タタキ）、土師皿（糸切り）、甕（弥生後期）、土器小片	
1015	柱穴状遺構	弥生～古墳時代	土器小片（4点）	
1016	柱穴状遺構	中世	須恵器甕、土師皿（糸切り）、土器小片	
1017	柱穴状遺構	古代以降	須恵器片（3点）、土器小片（点）	
1018	柱穴状遺構	不明	土器小片（3点）	
1019	柱穴状遺構	古代以降	須恵器杯（小片 1点）、土器小片（5点）	
1020	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器小片（3点）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1021	攪乱	現代	須恵器片（1点）、甕（古墳時代、弥生後期前半）、壺（弥生後期）、土師碗、土器小片	
1022	土抗	11～12世紀	白磁片、陶器鉢?、陶器甕、須恵器大甕、須恵器杯蓋（8C）、須恵器杯?、須恵器平瓦、瓦質大型鉢、黒色土器B類碗、土師質大型土器（機種不明）、甕（古墳～古代、弥生時代終末、弥生中期）、高杯（古墳）、土器小片（多）	
1023	攪乱	現代	青磁小片（1点）、白磁小片（1点）、須恵大甕、須恵器高台付杯（8C）、土師皿（糸切り）、土器小片	
1024	攪乱	現代	須恵器大甕、須恵器杯蓋、土師甕（古墳前期）	
1025	攪乱	現代	青磁片（1点）、須恵器甕、須恵器杯、須恵器鉢（13C前半?）、土師杯、甕、甕棺?、土師大甕、土器小片	
1026	柱穴状遺構	13世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、須恵器大甕、瓦質大型鉢?、甕取手、甕（古墳前期）、土器小片	
1027	土抗		青磁片、白磁皿、陶器片、須恵器高台付杯、須恵器甕、土師碗、土師質瓦、	
1028	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器甕、土器小片	
1029	土抗	12世紀以降	青磁片、白磁碗片、須恵器甕、須恵器杯、須恵器杯蓋（8C）、土師杯（糸）、土師皿（糸）、甕（古墳）、土器小片	
1030	柱穴状遺構	中世	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、須恵器甕、土師杯（糸切り）、甕（古墳時代）、土器片	
1031	柱穴状遺構	古代末	白磁皿、須恵器甕、須恵器杯蓋（6C、7C）、須恵器高台付杯（8C）、土師器碗、甕（弥生～古墳時代）、土器小片（多）	
1032	柱穴状遺構	7世紀以降	須恵器甕、須恵器杯（6C後半、7C）、土師皿（糸）、須恵器模倣甕（古墳後期）、土師甕（古墳～古代）、土器小片	
1033	柱穴状遺構	7世紀以降	須恵器壺?、須恵器杯蓋（8C）、須恵器杯、壺（弥生後期）、土器小片（主に古墳時代）	
1034	柱穴状遺構	古代末	白磁片、須恵器片、土師器杯蓋（8C）、甕（古墳）、土器小片	
1035	溝			
1036		古墳時代後期以降	須恵器片（小片 4点）、土器小片	
1037	土抗			
1038	柱穴状遺構	不明	土器小片（2点）	
1039	攪乱	現代	須恵器片、須恵器杯（6C）、土師器碗、不明土製品、土器小片	
1040	柱穴状遺構			
1041	柱穴状遺構			
1042	生垣根痕			
1043	柱穴状遺構			
1044	柱穴状遺構			
1045	柱穴状遺構			
1046	柱穴状遺構			
1047	柱穴状遺構			
1048	生垣根痕			
1049	生垣根痕			

遺構一覧 1

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1050	生垣根痕	7C以降	須恵器坏蓋(8C)、土器小片(5点)	
1051	溝			
1052	柱穴状遺構	不明	土器小片	
1053	柱穴状遺構	古代末	須恵器坏蓋、須恵器坏、土師器甕(平行タタキ)、土師环(6C 須恵器模倣)、土器小片	
1054	溝		龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、越州窯系青磁碗、須恵大甕、土師椀、白磁碗、甌	
1055		中世	須恵器甕、土師皿(糸切り)、土器小片	
1056		14世紀以降	白磁皿Ⅸ類、須恵器甕、瓦質控鉢、土器小片、鉄片	
1057	柱穴状遺構	7世紀以降	須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏、土器小片(多 弥生~古墳時代)	
1057	生垣根痕			
1058	近現代井戸	現代	染付碗(現代)、白磁碗Ⅳ類、黒色土器B類椀、須恵器甕、須恵器坏蓋(1点にヘラ記号あり)、須恵器坏(6C後)、甌取手、甕(古墳時代)、高坏(古墳前期)、鉢?(弥生か)、土器小片(多)、滑石製石鍋片(11~12C)、瓦質平瓦、鉄片	
1059	攪乱			
1060	包含層	古代末	白磁片、褐釉陶器片、陶器大甕、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏(6C)、須恵器高台付坏(8C中)、土師器碗(10~11C)、黒色土器B類椀、円筒形鉢(古代末)、土師器坏蓋(7C)、土師器高台付坏(8C)、小型壺(古墳)、甕(古墳後期 須恵器模倣、古墳前期、弥生後期)、壺、器台(弥生)、高坏(古代)、土器小片(多)	
1061	包含層?			
1062	生垣根痕	古代以降	須恵器大甕、須恵器甕、須恵器坏蓋、須恵器坏、黒色B類椀、高坏、甕、土器小片(多)、鉄片	
1063	攪乱	近現代	白磁(近現代)、須恵器片、七輪、土師器碗、土師器甕(平行タタキ)、高坏、砥石、青銅製煙管、鉄片	
1064	井戸	14世紀	須恵器大甕、須恵器坏蓋(6C)、須恵器高台付坏(8C後半)、土師椀(古墳前期)、小型丸底壺0古墳前期、甕(古墳、弥生中~後期)、壺(弥生後期)	
1064 掘方	井戸	13世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(13C前半)、白磁水柱片(12~13C)、土師环(糸切り)、須恵器大甕(複数個体が1点ずつ)、須恵器甕(小片)、須恵器坏蓋(7C後半)、須恵器坏(6世紀後半)、須恵器片、甕(弥生~古墳)、高坏(古墳)、甕(古墳、弥生後期中頃)、壺(弥生後期、古墳?)、土師器片、	
1064 井筒	井戸	14世紀	天目碗(極小片)、須恵器甕、須恵器坏蓋(6C)、土師皿(小片)、甕(古代?、弥生時代)、壺(弥生後期)、土器小片、	
1064 周辺ベルト			須恵器大甕片(5点 別個体)、甕(古墳、弥生後期前半)、大型壺(古墳時代前期)、壺(弥生中~後期)、袋状口縁壺(弥生中期)、土器片(多)	
1065	土壇墓	11世紀頃?、要検討	土師皿(ヘラ切り 完形1点)、土師环(小片 ヘラ切り)、土師椀、須恵器高台付坏(7世紀後半)、須恵器坏(6C中頃)、須恵器坏蓋(7世紀末、6世紀)、須恵器甕、移動式甕(小片)、甕(古墳)、土師甕(格子・平行タタキ)、	SP1066を切る
1066	柱穴状遺構	古代末	須恵器甕、土師器碗(10~11C)、土師器甕、高坏(古墳前期)、土器小片	SK1065に切られる
1067	柱穴状遺構	古代以降	須恵器小片、土師器碗、土器小片	
1068	攪乱	現代	白磁片、須恵器甕(小片2点)、甕(古墳時代、弥生後期)、土器小片	
1069	攪乱	現代	陶磁器(3点 近現代)、瓦質大型鉢(近世~近代)、土師質甕(古代、古墳時代)、甕(弥生中期)、器台(弥生)、土器小片	
1070	攪乱	現代	白磁(現代)、褐釉陶器、須恵器坏蓋(7C)、須恵器甕、土師器椀、土師环(糸切り)、瓦質控鉢、七輪、須恵器模倣甕(格子・平行タタキ)、小型丸底壺、土師甕(古墳時代)、甕(弥生中期)、壺(弥生後期前)、高坏(古墳前期)、飯蛸壺?	
1071	土抗			
1072	包含層?			
1073	柱穴状遺構	中世	須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏(6C後半)、土師器碗、土師环(糸切り)、甕(古墳時代、弥生後期)、壺(弥生中期)、土器小片、滑石製石鍋片	SK1077を切る
1074	攪乱	現代	瓦質坏(ヘラ切り)、土器小片(3点)	
1075	攪乱		須恵器甕、須恵器高台付坏(8C中)、土師質大型製品片、土器小片(6点)、不明鉄器	
1076	土抗			
1077	土抗	古代末~中世	須恵器甕、須恵器坏蓋(7C)、須恵器坏、瓦器椀、甕(古墳前期、弥生?)、壺、高坏、土器小片、鉄滓	
1078	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器大甕、須恵器坏(6C)、土師器甕(須恵器模倣)、壺(弥生後期)、甕(古墳前期)	
1079	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器甕、須恵器坏、甕(古墳時代)、移動式甕?、土器小片	
1080	攪乱	現代	染付碗(近世)、青磁片、白磁、陶器片、須恵器甕、須恵器坏(6C)、須恵器高台付坏、七輪、土師器椀、土師皿(糸切り)、甕(弥生中~後)、壺(弥生後期)、土器小片、平瓦(瓦質)、鉄片、砥石、黒曜石片(1点)	陶磁器は近世から近代
1081	柱穴状遺構	11C以降	白磁皿(11C)、須恵器坏蓋(8C)、須恵器甕、壺(弥生後期?)、甕(古墳時代、弥生)土器小片	
1082		古墳時代後期以降	須恵器甕(小片2点)、須恵器坏?、土器小片(主に古墳時代か)	
1083	柱穴状遺構		須恵器甕(小片3点)、須恵器坏蓋(6~8C)、土師器椀、甕(古墳時代、弥生後期)、高坏?、土器小片(多)	
1084	柱穴状遺構	不明	土器小片(古墳時代が主か)	
1085	柱穴状遺構	7C以降	須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏、甕(古墳時代、弥生後期)、土器小片	
1086	包含層?			
1086	攪乱			
1087	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片、土器小片(3点)	
1087	不明	8世紀以降	須恵器甕、須恵器坏(6C後半、8C)、須恵器坏蓋(7C)、土師器碗(10C頃)、甕(古墳時代、弥生?)、土師椀(古墳前期)、土器小片(多 古墳時代が多い)	
1088	柱穴状遺構	8世紀以降	須恵器高台付坏(8C?)、土師甕(小片1点)、土器小片(2点)	
1089	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器甕(小片1点)、須恵器片、土器小片(1点)	
1090	土抗	8世紀以降	須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏(6C後半 ヘラ記号)、土師質高台付坏(8C)、土師器甕(格子タタキ)、壺(古墳時代?)、土器小片	
1091	溝状土抗?			
1092 (2011)	溝			2128を切る
1092・1080			龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁瓶、白磁碗Ⅳ類、白磁皿、陶器鉢、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器坏蓋(6~7C)、須恵器高台付坏、須恵器高坏、須恵器瓶、瓦器片、土師环(糸)、土師皿(糸)、土師質鉢、甕(古墳、弥生後期)、壺(古墳前期)、鉢?、高坏、甕棺? 鉄片、	
1093	柱穴状遺構			
1094	柱穴状遺構	6~7世紀	須恵器坏蓋、土師环?	1060に切られる
1095	柱穴状遺構	古代末~中世	須恵器片、土師器椀、土器小片	
1096	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片(3点)、土器小片(6点)	
1097	柱穴状遺構	近代	染付片(3点)、須恵器甕、須恵器高坏、須恵器坏、瓦器椀、甕(弥生後期)、土師器甕(格子タタキ)、土器小片	
1098	柱穴状遺構	不明	土器小片(4点)	
1099	柱穴状遺構	8C以降	須恵器甕、須恵器高台付坏(8C)、土師器甕(平行タタキ)、甕(弥生後期)、土器小片	
1100	生垣根痕	11世紀?	須恵器甕、須恵器坏?、土師椀、土師环(ヘラ切り)、土師甕、土器小片	
1101	溝状土抗	古墳時代以降	甕(古墳前期)、土器小片	
1102	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器甕、須恵器坏蓋?、土器小片	

遺構一覽 2

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1103	溝 1051 と同じ		龍泉窯系青磁片、	SD1051 と同一遺構
1104		12 世紀後半	龍泉窯系青磁片、同安窯系青磁碗、土師環(糸)、甕?、土器小片	
1105	溝			
2001	溝 1051 と同じ	14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅲ類、白磁碗Ⅴ・Ⅵ?類、白磁壺?、白磁小片、褐釉陶器片、陶器盤、陶器瓶、須恵環(6C 後半)、須恵器高台付環(7C 後半、8C 中～後)、須恵環蓋(8C)、須恵大甕、須恵甕(小片多)、須恵器長頸壺、須恵器高環、土師碗(古代末)、瓦器碗、土師環(糸切り?)、土師皿(糸)、土師質鉢(12～13C)、土師質播鉢、甌取手、甕(古墳時代、弥生後期)、土師質環(6C 後半)、土師質甕(両面に平行タタキ)、壺(弥生後期)、棒状土製品(匙等の柄か)、平瓦(瓦質)、土器小片(多 弥生土器が多い、土師質鉢や播鉢、土師皿等もみられる)	土師甕は須恵器を模したものが数点ある。
2002	溝 1103 と同じ	14 世紀	天目碗、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿、白磁片、陶器盤(Ⅲ類?)、須恵器捏鉢(12～13C)、陶器瓶、須恵器甕(小片 多)、須恵器環蓋(8C)、須恵器環(6C 後半)、須恵器瓶、須恵器高台付環(7C 後半、8C 後半)、須恵器瓶?(外底部にヘラ記号)、須恵器平瓦(縄目圧痕)、土師器高台付環、瓦質羽釜、瓦質捏鉢、土師環(糸)、土師皿(糸)、大型二重口縁壺(古墳前期)、甕(弥生時代)、壺(弥生後期)、高環(古墳前期)、土器小片(多 弥生～中世)、鉄片、滑石製石鍋片、	
2002 (1103) 一段下げ		12 世紀	白磁碗Ⅴ類、白磁碗片、白磁皿、須恵器甕、須恵器環蓋(8C)、須恵器環(6C 後半)、須恵器高台付環(8C 後半)、須恵器高環、土師環(糸切り)、甕(古墳時代、弥生後期、弥生中期)、鉢(弥生終末)、高環(弥生?)、壺(弥生後期)、黒曜石片(1点)、土器小片(多 弥生土器が多い) 馬歯	須恵器は小片で環蓋片が多い
2002 トレンチ			須恵器甕、須恵器小片、土師器碗?、高環(古墳)、甕(古墳)、土器小片	
2003	土抗 1027 と同じ		龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(小片)、青磁小碗、白磁碗片、白磁皿、陶器盤、陶器甕?、須恵器捏鉢、須恵器甕(小片多)、須恵器環蓋、須恵器高台付環(7C 末～8C)、瓦質深鉢(中世)、土師環(糸切り)、土師皿(糸切り)、土師器捏鉢(12C 頃か)、土師器碗、甕(古墳後期)、高環、土器小片(多 古墳から中世)、土師質平瓦(縄目圧痕)	
2004	土抗	古墳時代後期以降	須恵器片、土師甕、土器小片	
2005	溝 1086 と同じ		白磁片、須恵器環蓋(8C、7C)、須恵器環、須恵器瓶?、土師環(糸切り)、土器小片(多)	
2006	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器甕、甕(弥生?)、土器小片	
2007	溝 1105 と同じ	古墳時代後期以降	須恵器壺、高環(古墳)、甕(弥生後期)、	
2008	土抗	古墳時代後期以降	須恵器提瓶?、須恵器甕、須恵器高環、須恵器環蓋、須恵器環、甕(古墳、弥生後期)、土器小片(多)	
2009	柱穴状遺構	不明	土器片(1点)	
2010	柱穴状遺構 1032 と同じ	古墳時代後期以降	須恵器甕(小片)、土師甕(平行・同心円タタキ)、土器小片	
2011	溝			
2012	柱穴状遺構 2121 と同じ	古墳時代後期以降	須恵器片、土器小片	
2013	溝 1086 と同じ	古代末～中世	青磁片、褐釉陶器片、須恵器甕、須恵器環蓋(7C)、須恵器小片、土師台付甕、高環(古墳前期)、甕(古墳、弥生後期)、壺?、土器小片	
2014	土抗 2134 と同じ	古墳時代前期	甕(古墳前期、弥生後期)、不明土製品(器壁薄く内面は布圧痕)、	
2015	2120 と同じ	古墳時代前期	甕(古墳時代前期 破片多)、器台、土師碗(古墳前期)	
2101	方形土抗	近現代	白磁碗片、褐釉陶器片、須恵器大甕、須恵器高環、須恵器環蓋(8C)、須恵器高台付環(7C 後、8C)、土師器碗、瓦質土器片、高環(古墳)、甌取手、甕(古墳時代、壺(古墳)、土器小片(多量)、土師質平瓦、滑石製石鍋片	
2102	柱穴状遺構	8 世紀～10 世紀	須恵器甕、須恵器環蓋(8C)、須恵器高台付環(8C)、瓦器碗?、土師碗?、土師質甕(古代?)、甕(弥生?)、土師質瓶?、土器片(弥生～古墳時代)	
2103	柱穴状遺構	古代後半～中世	土師器碗、土器小片(2点)	
2104	土抗	古代から中世	須恵器甕(小片 多)、須恵器環蓋(7C)、土師器大型鉢?、高環、甕(古代?、古墳)、土器片(多)	小片のみで実測不可
2105	溝	古代末～中世	青磁片、白磁壺、陶器盤、須恵器甕、須恵器環蓋、甕(古墳)、土師質鉢?、高環(弥生後期)、土器小片	いずれも小片
2105 1～3 層		古代	須恵器甕(小片多)、須恵質小碗、須恵器環蓋(6C 末～8C)、須恵器環(6C 後半)、甌取手、甕(古墳後期-須恵器模倣、古墳前期、弥生中期)、壺(古墳時代)、土師碗、高環(古墳前期)、土器小片(多量 古墳時代が多い)	
2106	溝	古代末	白磁碗片、白釉陶器片、陶器片、須恵器甕、須恵器環蓋(8C、6C?)、須恵質碗、土師環(糸切り)、土師皿(灯明皿含む)、土師甕、土師質甕(須恵器模倣 古墳後期)、壺(弥生後期)、土鍾(小片 2点)、土器小片(多 古墳時代が主か)	
2107	土抗	7～8 世紀	須恵器環(7～8C)、甕(古墳前期)、壺(弥生後期)、土器小片(弥生～古墳時代)	
2108	谷			
2108 上層	谷	14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(13C 中～14C 初)、越州窯系青磁碗、白磁碗片、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器環蓋(5C 末～6C)、須恵器高環、須恵器九瓦(縄目圧痕・布目) 須恵器提瓶、須恵器環蓋(6C 前～中)、甕(古墳時代、弥生中～後)、土師器碗、土師環(糸)、甕(古墳前期、弥生後期)、高環(弥生後期)、瓢型土器(弥生中期中頃)、器台(弥生後期)、甕棺(弥生中期後半)、	
2108 下層	谷	古代	須恵器環蓋(8C)、須恵器甕、須恵器片、須恵器甕(小片 4点)、須恵器片、長頸壺(古墳前期 全体の7割遺存)、鉢(古墳前期)、甕(破片多 古墳前期)、高環(弥生後期中頃～後半、古墳)、壺(弥生後期)、大型二重口縁壺(弥生後期後半)、器台土師甕(古代、古墳後期、古墳前期)、壺(古墳時代、弥生後期後半、弥生後期前半)、器台、甕(弥生中期中頃)、高環(古墳、弥生後期後半)、器台(弥生～古墳)、瓢型土器(弥生中期)、袋状口縁壺(弥生中期後半～後期前、後期後半)、甕棺(弥生中期)、瓦質平瓦、砥石(砂岩)、	古墳時代前期の甕破片が多い
2108 上～下層		古墳時代中期	須恵器環蓋(小片 2点 1点にヘラ記号あり)、須恵器環(6C 中)、須恵器甕(小片 5点)、須恵器高環(小片 1点) 土師碗(古墳前～中)、器台、高環、甕(古墳前期-破片多、古墳前～中期、弥生終末)、壺(弥生後期中頃、後期後半-袋状口縁壺)、高環(弥生後期後半)、須恵器大甕(破片大きい)、須恵器高環脚や甌頸部?(波状文)、須恵器環蓋(6C、7C、1点にヘラ記号あり)、須恵器環(6C 後)、須恵器高環脚部(焼成不良)、須恵器高台付環(7～8C)、土師甕(古代?、古墳後期)、甌取手、大型二重口縁壺(古墳前期)、甕(弥生中期)、高環(古墳)、壺(弥生後期)、土師鉢(古墳前期)、器台(古墳)、 黒曜石片(1点)	
2108 1～3 層		古墳時代後期	須恵器環蓋(6C?)、須恵甕、器台(弥生後期～古墳)、高環(古墳前期後)、大型壺(弥生後期～古墳)、高環、小型鉢(弥生?)、鉢(弥生?)	
2108 シルト層			甕(弥生後期、古墳時代)、 粘土塊(焼成してる?)、	
2108 シルト下層			甕(小片 古墳)、甌取手、	
2108 シルト下粗砂層		弥生時代後期前半?	須恵器片(小片 1点のみ)、甕(破片多 弥生中～後)、壺(弥生後期前～中)、高環(弥生中～後)、器台(弥生)、甕棺?、砥石(砂岩)、	破片は大きめであるが口縁などは少ない。須恵器片は混入か
2108 西側(砂丘) ベルト			甕(弥生後期後半、弥生後期中頃、弥生中期中頃)、壺(弥生後期後半、弥生後期中頃)、器台	
2108 砂丘側ベルト		中世	龍泉窯系青磁片、須恵器高台付環(8C)、須恵大甕、土師環(糸切り)、土師甕(古墳後～古代?、古墳前期)、壺(弥生後期中頃、弥生中期)、高環、滑石片	
2109	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器環蓋、須恵器環(6C 中)、須恵器片、甕(古墳、弥生中期)、土器片(古墳時代が主)	
2110	柱穴状遺構	古墳時代以降	須恵器環(6C 中)、甕(古墳前期、弥生時代)、土器小片	
2111	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器環蓋(6C)、須恵器甕、土器小片	
2112	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器環蓋、甕(古墳時代)、土器小片(2点)	

遺構一覧 3

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
2113	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器提瓶、須惠器環蓋(6C)、須惠器甕、甕(古墳時代、弥生中～後期)、土器小片	
2114	土坑	古墳時代	土器小片(弥生中期～古墳時代)	
2115	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器環(6C後)、甕(古墳、弥生後期前)、	
2116	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器甕、須惠器環(6C)、甕、壺(弥生後期)、土器小片	
2117	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器片、鉢?(古墳から古代)、小型丸底壺、甕(古墳前期)、土器小片	
2118	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器環蓋(6c前)、甕(古墳前期、弥生後期)、壺(不明)、鉢?(口縁に波状文)、	
2119	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕(古墳前期)、土器小片	
2120	柱穴状遺構	中世	磁器片(小壺か)、須惠器片、土師碗、土師環(糸切り)、甕(古墳)、土器小片、土錘(小片)、黒曜石片(1点)	
2120一段下げ		7C以降	須惠器甕、須惠器環蓋(7C)、甕(古墳～古代)、土器小片	
2121	柱穴状遺構	古代以降	瓦器碗(小片)、土器片(1点)	
2122	柱穴状遺構	不明	土師環?、高環(弥生後期)、土器小片(弥生～古墳か)	
2123	柱穴状遺構	不明	土器小片(2点 弥生時代か)	
2124	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器甕、土器小片(1点)	
2125	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器環(6C)、壺(古墳後期)、甕(古墳後期前)、土器小片	
2126	土坑		須惠器環蓋(小片 7C)、須惠器甕、甕(古墳前期、弥生後期)、	遺存不良
2127	柱穴状遺構		須惠器環蓋(7C)、須惠器甕、土師甕(須惠器模倣-古墳後期、土師碗、土器小片)	
2128 (1092)	ぬ次	古代末～中世、もしくは近世	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗Ⅴ類、褐釉陶器瓶、陶器掃り鉢片(近世以降?)陶器注口壺(注口部)、陶器瓶、陶器小壺、須惠器環蓋(8C、7C、6C 1点ヘラ記号)、須惠器高台付環(8C)、須惠器環(6C)、須惠器甕、須惠器大甕、須惠器壺、須惠器高環、黒色土器B類碗、土師碗(古墳前期)、土師環(糸切り)、土師皿(糸切り)、須惠器高環、甕取手、甕(古代、古墳前～中)、高環(古墳前)、壺(弥生後期)、器台、甕棺(弥生中期)、土器小片、鉄滓	
2128一段下げ		古代末以降	須惠器壺?、須惠器環(7～8C)、須惠器甕、甕(弥生中～後)、高環(古墳)、壺(弥生後期)、土器小片	
2129	柱穴状遺構	弥生中期以降	甕(弥生中期)、土器小片(2点)	
2130	柱穴状遺構	古墳時代	壺(古墳か)、土器小片	
2131	柱穴状遺構	不明	土器小片(3点)	
2130・2131		古墳時代後期以降	須惠器環、甕(古墳時代)、土器小片	
2132	柱穴状遺構	古墳時代以降	土師器鉢?、土器小片(3点)	
2133	柱穴状遺構	古墳時代	小型丸底壺、甕(古墳前期)、器台、壺(古墳時代)	
2134	土坑	古代前期	須惠器環蓋(7C、6C?)、須惠器高台付環(8C)、須惠器高環、須惠器甕、土師甕(須惠器模倣-古墳後期)、甕(弥生中期)、土器小片(弥生～古墳)	いずれも小片
2135	包含層	7C以降	甕(弥生中期)、土師器環蓋(8C)、土器小片	
2136	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕(古墳時代)	
2137	土坑		龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類(Ⅱ類内部にスタンプ 14C)、高麗青磁(瓶 象嵌)、白磁片、陶器片、須惠器甕、須惠器環蓋、土師環(糸切り)、土師皿(糸切り)、土師碗、甕、土師器甕(須惠器模倣-古墳後期)、甕(弥生後期)、鉄滓、	
2138	柱穴状遺構		甕(古墳前期)、土器片(1点)	
2139				
2140				
2141				
2142	柱穴状遺構			
2143	柱穴状遺構			
3001	土坑	8世紀前半	磁器片、須惠器環蓋(8C前半、6C、1点ヘラ記号あり)、環(6C)、須惠器高環、須惠器甕(小片 多)、土師器高台付環(8C)、高環(古墳)、土師甕(古墳前期～古代、一部須惠器模倣あり)、甕(弥生土器)、土器片(一部弥生)	
3001北側一段下げ			須惠器環蓋(6C)、土師器甕(須惠器模倣 古墳後期)、	
3002	土坑	7～8世紀頃	須惠器甕、須惠器環(7～8C)、須惠器高環、甕(弥生～古墳)、土器小片(古墳時代か)、	
3003	土坑	8世紀前半	須惠器環蓋(8C前半、7C、6C 2点ヘラ記号あり)、須惠器環(6C後)、須惠器高環、須惠器甕、須惠器大甕、土師器高台付環、高環、甕、甕(古墳前期、弥生中～後前)、	
3004	土坑	10～11世紀	須惠器高台付環(8C)、須惠器甕、須惠器大甕、須惠器環蓋(8C前、7C 1点ヘラ記号)、甕?、土師器碗、土師器甕(須惠器模倣)、甕取手、土器小片(弥生～古墳時代)	
3005	谷(近世水田下)		須惠器環蓋(8C、7C後半、6C、2点ヘラ記号あり 一部焼成不良)、須惠器環(6C)、須惠器提瓶、須惠器長頸壺、須惠器甕(一部焼成不良)、須惠器大甕、須惠器高環(焼成不良)、須惠器甕、須惠器高台付環(8C)、土師質大型甕(古代?、須惠器模倣-古墳後期)、甕、甕取手、高環(古墳)、器台(古墳)、土器片(多量)	須惠器高環、甕環蓋に焼成不良の軟質な遺物有り
3006	溝	12世紀後半	龍泉窯系青磁碗、白磁碗片、白磁皿(VI-2類)、陶器壺、陶器甕、須惠器環蓋(1点ヘラ記号有り 6C、7C)、須惠器環(6C)、須惠器高台付環(8C)、須惠器高台付壺、須惠器高環、須惠器甕、土師器碗、瓦質土器片、土師鉢(糸切り 多、ヘラ切り 1点)、土師皿(糸切り)、土師器高台付環、甕取手、土師器甕(須惠器模倣 平行タタキ、古墳後期)、器台(弥生～古墳)、甕(古墳時代、弥生後期、弥生中期)、高環(古墳前～中)、棒状土製品、鉄滓、須惠質平瓦片(焼成不良)、	
3007	溝		須惠器甕、須惠器瓶、須惠器高台付環、須惠器環蓋(ヘラ記号 焼成不良)、甕(古墳前期、弥生後期、弥生中期前葉)、壺(弥生後期)、器台、土器小片、	
3008	溝		白磁片、須惠器環蓋(8C)、須惠器環、須惠器甕、土師環(ヘラ)、土器小片、滑石製石鍋片、	
3009	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器片、甕(弥生後期?)、土器片(3点)	
3010	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠器環、土師器甕(平行タタキ・同心円タタキ→ナデ)	
3011	柱穴状遺構			
3012	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須惠甕、甕(古墳前期?)	
3013	溝状土坑	7世紀	須惠器環蓋(6c末～7c)、須惠甕、土器小片	
3014	溝状土坑	古墳時代後期以降	須惠器大甕、甕(弥生～古墳か)、土器片	
3015	溝状土坑	不明	土器片(1点)	
3016	溝状欠	不明	土器小片(2点)	
3016東側1段下げ			須惠器環蓋(7C前)、甕(弥生後期)、土器小片	
3017	溝状土坑	7世紀後半	須惠器環蓋(7C後半)、須惠器環、須惠器甕、甕(古墳、弥生中～後)、土師碗、土器小片	
3018	柱穴状遺構	古墳前期以降	甕(弥生後期)、大型壺(弥生後期～古墳前期)、土器片	
3019	溝 or 谷	古墳時代前期	高環(古墳前期、弥生中～後期)、器台(古墳時代)、甕(弥生終末～古墳初頭、弥生後期中頃、甕(古墳前期)、砥石(砂岩)	
3019	渠 or 谷		龍泉窯系青磁皿、白磁碗片、土師器碗(10～11C)、須惠器高台付環、(8C)、須惠器高環、須惠器環蓋(一部ヘラ記号有り 6C、7C)、須惠器環(6C前～中)、須惠器甕、須惠器甕、土師甕(須惠器模倣 古墳後期 破片多、古墳前～中 破片多)、大型鉢?(平行タタキ 古墳後期?)、高環(弥生後期～古墳中期)、器台、小型丸底壺(古墳前期)、甕、甕取手、土師碗、長頸壺(古墳前期)、袋状口縁壺(弥生時代後期中頃)、小型鉢(弥生時代)、甕(弥生終末、弥生時代中～後期)、鉄釘、鉄滓、滑石片、軽石(未加工)、	遺物はコンテナケースで12箱
3020	柱穴状遺構	12世紀	白磁碗Ⅴ類、須惠器環、須惠器小片、土師器盤?、土器小片	

遺構一覽 4

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
3021 (SD3145を含む)	溝 or 谷		陶器壺(12～13C)、須恵大甕、須恵甕(複数個体の破片が1点ずつ)、須恵器坏(6C末 3点別個体)、須恵器高坏、須恵器坏蓋、須恵器高台付坏(7世紀後半)、土師壺(古墳前期 破片多)、土師大甕(格子、平行タタキ)、甕棺(弥生中期)、小型鉢(古墳?)、土師椀、高坏(古墳前期、弥生)、甕(古墳前期、弥生中期)、土師甕(古墳前期)、土師器坏(6C)、甕取手、鉄片	土師大甕と坏は須恵器を模したものが多い。
3022	柱穴状遺構	古墳時代以降	土器小片(古墳時代)	
3023 (1008)	防空壕			
3024	防空壕柱穴	近代	白磁片(近代?)、須恵器片(小片1点)、土器片(3点)	
3025	防空壕柱穴	近代	土器片(3点 不明)	
3026	防空壕柱穴	近代	陶器播鉢(近代)、瓦質瓦(小片)、甕取手、土師器坏蓋(8C)、土師坏(糸)、土器小片、鉄片	
3027	防空壕柱穴	近代	陶器片、土器片(小片1点)	
3028	防空壕柱穴			
3029	防空壕柱穴	近代	磁器(近代)、須恵器坏蓋(7C)、須恵器片、土器小片	
3030	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋(小片1点)、土器小片(8点)	
3031	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕(古墳時代前期)	
3032	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕(古墳、弥生後期?)、弥生中期、土器小片	
3033	溝 or 谷	古墳時代後期以降	須恵器甕(小片 複数個体)、須恵器坏蓋、須恵器坏(6C中頃)、土師器大甕(平行タタキ→ナデ 須恵器模倣)、甕(古墳前期、弥生後期)、壺(古墳?、弥生後期)、高坏(古墳前期、弥生中～後期)、土器小片(多くは弥生土器か)。	
3034	柱穴状遺構	古墳時代以降	壺(古墳時代 1点の胴部が細片化)	
3035	柱穴状遺構	6世紀以降	須恵器坏(6C)、甕(古墳時代)、土器小片	
3138				
3139	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕(小片 古墳前期)、土器小片	
3140	柱穴状遺構	6世紀以降	須恵器坏蓋?、甕(古墳前期)	
3139・3140		古墳時代後期以降	須恵器坏蓋?、甕(古墳時代)、土器小片	
3141	柱穴状遺構	12世紀以降	須恵器坏蓋(6C)、瓦器片、甕(古墳時代、弥生後期)、移動甕片?、土器小片	
3142		古墳時代前期以降	小型丸底壺?、器台(弥生中～後)、甕(古墳時代)、土器小片	
3143	柱穴状遺構	不明	土器小片(1点)	
3144	谷?流路?	古墳時代後期	須恵器甕、甕(古墳前期、弥生終末、弥生後期中頃、弥生中期中頃)、壺(古墳前期、弥生後期、弥生中期中頃)、袋状口縁壺(弥生後期前半)、高坏(古墳、弥生中～後)、瓢型土器(弥生中期)、鉢(弥生)、器台、甕棺(弥生後期?、弥生中期)、土器小片、砥石	弥生後期の遺物多く、また各時期とも甕の破片が多い
3145	流路	弥生時代後期～古墳時代前期	壺(弥生中期)、甕(弥生後期～古墳前期)、器台?、土器小片	3021の一部
3145 下粗砂層		弥生時代後期～古墳時代前期	高坏(古墳前期)、器台?、甕(弥生後期中頃)、壺(古墳時代?)	
3146	土抗	古墳時代前期	甕(古墳前期、弥生後期、弥生中期中頃-赤色顔料)、壺(弥生後期前、弥生後後半、弥生中後半)、高坏、土器小片	
3147	井戸?	古墳前期	甕(古墳前期、弥生後期中頃、弥生中期)、椀?、器台(弥生終末～古墳)、高坏、二重口縁壺(古墳前期)、壺(弥生後期)、土器小片(多 主に弥生後期の甕と思われる)。	
3148	柱穴状遺構	弥生時代～古墳時代	甕(弥生中期)、土器小片(3点 弥生～古墳時代か)	
3149	土抗	古墳時代中期末～後期前半	壺(古墳前期)、甕(胴部 古墳前期か)、甕、小型丸底壺、高坏(古墳前期後半)、土器小片	3158を切る
3150	柱穴状遺構	弥生時代?	甕(弥生?)、土器小片(3点)	
3151	土抗	弥生時代後期末	甕(弥生後期後半←小片多、弥生中期)、壺(弥生後期中～後)、高坏(弥生後期末)。	いずれも小片で摩滅は少ない
3152	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕(弥生終末、古墳)、壺(古墳?、弥生後期中頃)、器台(弥生後期)	
3153	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕(古墳時代、弥生時代後期?)、土器小片	
3154	柱穴状遺構	古墳時代後期	須恵甕、須恵器坏蓋 or 坏、長頸壺?、甕取手、甕、土器片(弥生～古墳)	
3155	柱穴状遺構	古墳時代	甕(小片 古墳時代)、土器片	
3156	溝	弥生時代後期	甕(弥生後期)、壺(弥生後後半)、器台、土器小片(弥生甕か)、大型壺(弥生後期?)	
3157				
3158	溝状遺構	古墳時代前期	壺口縁(二重口縁か 古墳前期)、土器小片(1点)	3149に切られる
I区2～3面掘り下げ			龍泉窯系青磁碗II類、白磁碗V類、陶器片、須恵器大甕、須恵器甕(小片多)、須恵器坏蓋(小片多 2点にへら記号有り)、須恵器坏(6C)、須恵器高台付坏(8C前)、土師器碗、土師坏(へら切り、糸切り)、甕取手(5点)、甕(古墳前期)、椀、高坏(古墳?、弥生中期)、器台、甕棺(弥生中期)、滑石製石鍋片、凹石	
II区1面検			龍泉窯系青磁碗(小片)、龍泉窯系青磁皿、陶器片、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器高坏、須恵器坏蓋(7C)、須恵器高台付坏(8C)、移動式甕、甕(弥生後期～古墳)、土器小片(多)、滑石石鍋片、	
II区1～2面掘り下げ			飯蛸壺完形	
II区2面清掃			甕(弥生中期)、高坏(弥生中期)	
II区南端壁面			大型二重口縁壺(古墳前期)、袋状口縁壺(弥生中～後期前)、甕(弥生)、碗(弥生中～後)、	

遺構一覧5



1. I区1面全景(北西から)



2. I区2面全景(北西から)



1. I区3面全景(北西から)



2. II区1面全景(南から)



1. II区2面全景(南から)



2. II区北側(東から)



1. SE1064 (東から)



2. SE1064 井筒 (東から)



3. SE1064 土層 (東から)



4. SE2137 (東から)



5. SE2137・SD2128 土層 (東から)



6. SE3147 (西から)



7. SE3147 (西から)



8. SE3148 (東から)



1.SK3023 (東から)



2.SK1065 (東から)



3.SK2104 (東から)



4.SK2104 土層 (西から)



5.SK3001 (北から)



6.SK3002 (北西から)



7.SK3003 (北から)



8.SK3004 (東から)



1.SK3006 (東から)



2.SK3146 (北から)



3.SK3149 (東から)



4.SK3149 遺物出土状況 (南西から)



5. SX3144 (東から)



6.SX3144 土層 (東から)



7. II区2面東側 (北から)



8. 廃土置場 (西から)



1.SD1092 (西から)



2.SD1092 土層 (北西から)



3.SD2011(西から)



4.SD2011 漆器出土状況



5.SD2128 (西から)



6.SD3021 土層 (北東から)



7.SD3006 土層 (西から)



8.SD3019 (北から)



1.3007 (水田) 土層 (西から)



2.SD3019 土層 (東から)



3.SD3021 (西から)



4.SD3145 (東から)



5.SD3021 (北東から)



6.SD3145 土層 (南から)



7. I区南壁土層 (北から)



8. II区1面遺構検出状況 (北東から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	よしづか 11							
書名	吉塚 11							
副書名	吉塚遺跡第13次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1299集							
編著者名	屋山洋							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	福岡市中央区天神1丁目8-1							
発行年月日	2016/03/25							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
よしづかいせき 吉塚遺跡	福岡市博多区 堅粕 413-2, 413-6 415-1, 419-2, 420-5	40137	0123	33° 59' 49"	130° 42' 39"	20140414 } 20140627	427㎡	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
那珂遺跡群 第145次	集落	弥生時代後期 ～近世	掘立柱建物・ 土坑・土墳墓・ 溝・水田	弥生土器・土師器・ 須恵器・貿易陶磁・ 近世陶磁				
要約	<p>調査地点は砂丘の南西端に位置し、北側1/4が砂丘上、南側3/4が谷および流路である。砂丘上の遺構は古墳時代と考えられる土坑と井戸が出土した以外は中世から近世にかけてのもので、溝数条、井戸4基、土坑数基が出土した。谷は南北に延び、南端部では近世～近代の水田が出土した。中央部分では谷の埋没中に数条の溝が掘られており、遺物は龍泉窯系青磁碗等の貿易陶磁器が出土した。古代末から中世前半にかけて掘られたものと考えられる。谷の土層は厚さ15～30cmの灰白色シルトで大きく上下に分けられるが、上層では中世後半の遺物と共に古墳時代前期、古墳時代後期から8世紀、11～12世紀の遺物が多量に出土した。シルト下層は更に2層に分けられ、第1層は古墳時代前期、下層では弥生時代中～後期の遺物が出土した。弥生時代の層の底面は東側にむけて緩やかに傾斜しており、調査区内では立ち上がりは確認できなかったため、当時の谷幅はかなり広がったと可能性があり、砂丘の南側に開口する谷ではなく、砂丘を分断する河川の可能性が考えられる。</p>							

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1299集

吉 塚 11

- 吉塚遺跡群第13次調査報告 -
2016年(平成28年)3月25日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 九州チューエツ株式会社
福岡県福岡市博多区東比恵2-9-1